

但シ別冊ハ教育本部ヲシテ要スル向ニ配賦セシム

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十二年十月二十八日

○海軍省達第百二十號

海軍里程表中別冊ノ通改正シ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス

但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ經理局長ヨリ配付セシム

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十二年十月二十九日

○陸達第五十二號

陸軍服役條例第六十六條及第百八條ニ依リ官等等級ヲ免セラレ一等卒又ハ之ト同等階級ノ兵卒ト爲リ尙現役ニ服セシムヘキ者ノ取扱左ノ通定ム

明治四十二年十一月六日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

- 一 平時編制ニ於テ從來屬シタル部隊ニ同兵種同等級ノモノアルトキハ當該部隊ニ於テ服役セシム
- 二 憲兵科下士上等兵及軍樂部下士、樂手補タリシ者ハ本籍地所管師團長ニ於テ其ノ指定スル所管内ノ部隊ニ編入ス
- 三 隊附縫工長靴工長タリシ者ハ陸軍省經理局長ニ於テ其ノ指定スル被服本廠又ハ同支廠ニ編入ス
- 四 隊附衛生部下士上等看護卒タリシ者ハ所管師團長ニ於テ其ノ指定スル所管内衛戍病院ニ編入ス但シ近衛師團ニ屬シタル者ハ第一師團長ノ指定スル衛戍病院ニ編入ス
- 五 前各號ニ依リ難キ者ハ其ノ所管ノ師團長又ハ臺灣總督、關東都督、韓國駐節軍司令官ニ於テ其ノ指定スル所管内ノ部隊ニ編入ス
- 六 前各號ニ依リ定員ヲ超過スルトキハ一時定員外ニ置クモノトス然ルトキハ陸軍報告例第一表及第二表ニ其ノ旨ヲ記載シ報告スヘシ

明治三十四年陸達第三十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十四年五月二日陸達第三十四號ハ陸軍下士上等看護手及樂手補ノ官職ヲ失ヒタル者ヲ現役ニ服セシムル取扱方ナリ

○陸軍第五十三號

陸軍經理學校學生採用規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月十九日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ清國駐屯軍諸部隊附屬者ノ學生候補名簿ハ陸軍會計監督部長ニ於テ同部所屬者ニ係ルモノト區分調製シ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條中劃註ヲ左ノ如ク改ム

第一師管內ニ在リテハ陸軍經理學校長、被服糧秣各支廠ニ在リテハ當該師管ノ師團經理部長、清國駐屯軍ニ在リテハ同軍司令部附主計正以下同シ

〔參照〕

陸軍第五十八號陸軍經理學校學生採用規程(明治三十九年八月二十九日)抄錄

第二條 各經理部長陸軍省經理局各課長陸軍會計監督部長陸軍經理學校長陸軍被服本廠長及陸軍糧秣本廠長ハ附表第一ニ據リ學生候補名簿ヲ調製シ毎年十一月迄日迄ニ陸軍省經理局長ニ進達スヘシ

第五條第一項 試驗委員長ハ筆記試驗問題ヲ密封シ之ヲ各經理部長ニ第一師管內ニ在リテハ陸軍經理學校長、清國駐屯軍司令部附主計正以下同シニ送付スヘシ

○海軍省達第二百二十一號

艦醫用品經理規程別表第二號中「澁紙」ヲ削除ス

明治四十二年十一月二日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二百二十二號

關東州在勤者海軍給與令施行細則中左ノ通り改正ス

明治四十二年十一月九日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十條中左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ外暖房用燃料ヲ給與スルノ必要アルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

○海軍省達第二百二十三號

長崎三菱造船所ニ於テ製造スヘキ甲號大驅逐艦ヲ山風ト命名ス

明治四十二年十一月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二百二十四號

艦團隊教育規則別冊ノ通定ム(別冊略ス)

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二百二十五號

明治三十四年九月達第九號同三十九號ハ海軍艦團隊將校及機關官教育規則同三十九年三月同第二十二號ハ海軍艦團隊下士卒教育規則ナリ

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治三十四年九月達第九號同三十九號ハ海軍艦團隊將校及機關官教育規則同三十九年三月同第二十二號ハ海軍艦團隊下士卒教育規則ナリ

○海軍省達第二百二十六號

野砲小銃及拳銃射擊規則第三十一條中水兵部員小銃射擊區分及彈藥包數額表備考欄內ニ左ノ一項ヲ加フ

九 艦團隊教育規則ニ依ル小銃射擊ノ競技ニハ兵曹水兵ノ定員一人ニ付三發ニ在リテハ六發トス

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十七號

明治三十四年四月達第五十四號ヲ廢ス

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治三十四年四月二日海軍省達第五十四號ハ海軍艦隊下士官教育規則ニ依リ發射セシムヘキ發射彈數ノ件ナリ

○海軍省達第百二十八號

海軍喇叭譜(附録海軍號笛譜)別冊ノ通改定シ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ別冊ハ艦團部隊用ノ分ハ艦營需品ヨリ供給シ其ノ他ハ之ヲ要スル向ニ海軍省軍務局ヲシテ配賦セシム

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十九號

基本長ハ焚火術獎勵ノ爲左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ前年十二月一日以後ニ施行セル艦艇機關高力運轉ノ際好良ナル成績ヲ得タルトキ各營直ニ在リテ技術拔群ト認メタル者ヲ選拔シ焚火選手證狀(左記書式)ヲ與フヘシ

- 一、焚火選手ノ數ハ二千馬力以下ノ艦船ニ在リテハ一名一千馬力以上ノ艦船ニ在リテハ每一千馬力(一、千馬力未満ノ艦)ニ付一名トス
- 二、焚火選手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス

本達ハ來ル十二月一日ヨリ施行ス

明治四十二年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

書式(用紙辭令用紙)

焚火選手證狀

軍艦某乘組(或ハ何々)

海軍何等艦團兵何 某

明治 年度ノ艦艇機關高力運轉ニ於テ焚火技術拔群ナルヲ認メ仍テ明治四十二年

達第百二十九號ニ依リ焚火選手ヲ命ジ此ノ證狀ヲ授與ス

此ノ證狀ノ有効期限ハ明治 年 月 日迄トス

明治 年 月 日

某艦長(或ハ何々)官勳功爵氏 名印

○海軍省達第百三十號

技術獎勵金品出納規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

本規程中「技術獎勵」ヲ「學藝技術獎勵」ニ改ム

第一條第一項中「學藝技術獎勵金」ノ下ニ「學校ニ於ケル學術試驗又ハ」ヲ加フ

第四條中「技術實驗競技等」ヲ「學術試驗技術實驗競技等」ニ「艦團其ノ他」ヲ「艦團校其ノ他」ニ改ム

第五條中「艦團其ノ他」ヲ「艦團校其ノ他」ニ改ム

第六條中「技術每ニ」ヲ「學藝又ハ技術每ニ」改ム

明治四十二年十一月 達 海軍省第百三十號

○海軍省達第百三十一號

海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則中左ノ通り改正ス

第三十三條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

火藥火工品ヲ供給、運搬或ハ保管轉換ヲ爲ス場合ニハ必ス其ノ最近検査成績ヲ受領先ニ通知ス  
ヘシ但レ検査請求中若ハ施行中ノモノナルトキハ之ヲ終リタル後其ノ成績ヲ通知スヘシ

明治四十二年十一月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十二號

明治三十六年達第九十號ヲ廢ス

明治四十二年十一月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

明治三十六年九月廿日海軍省達第九十號ハ海軍各艦附屬雜役船ノ種類及定數表ナリ

○海軍省達第百三十三號

鎮守府處務規程中左ノ通り改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第六條 司令長官ハ麾下ノ候補生ニ一時轉勤轉乘ヲ命シタルトキ又ハ麾下ノ士官以上ニ他ノ職務

ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 司令長官ハ在籍艦船役務ノ變更ヨリ生スル兵曹長同相當官准士官ノ一時ノ剩員ハ海軍定

員令第三條ノ補缺員トシテ之ヲ取扱フヘシ

第十七條中第四號ヲ削ル

第二十條以下ヲ左ノ通り改ム

第二十條 人事長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 募兵召集及充員ニ關スルコト

二 高等武官兵曹長同相候補生及文官ノ人事並身上ニ關スルコト

第二十一條 機關長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト

二 機關官ノ管理ニ關スル船體、機關、兵器ニ關スルコト

三 機關官以下ノ教育訓練ニ關スルコト

四 艦艇機關動作ノ統計ニ關スルコト

五 出師準備中機關部ニ關スル事項ニ關スルコト

第二十二條 軍醫長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 軍醫官及藥劑官以下ノ勤務ニ關スルコト

二 軍醫官及藥劑官以下ノ教育訓練ニ關スルコト

三 軍人ノ體格ニ關スルコト

四 恩給ニ係ル診斷及傷痕疾病ニ因ル免官免役診斷ニ關スルコト

五 傳染病豫防ニ關スルコト

六 艦船、建築物、被服、糧食、給水、排水ノ衛生ニ關スルコト

七 海軍病院ニ關スルコト

八 出師準備中患者治療ニ關スルコト

第二十三條 主計長ハ主トシテ會計經理ニ關スル諸報告ノ調査及被服糧食ノ出師準備ニ關スル

コトヲ掌ル

第二十四條 法務長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 海軍刑法、海軍治罪法、刑法、刑事訴訟法其ノ他刑事諸法令ノ適用ニ關スルコト

- 二 海軍懲罰令、文官懲戒令、海軍監獄則、軍事司法警察及捕獲審檢令ニ關スルコト
- 三 軍法會議ニ關スルコト
- 四 訴訟ニ關スルコト
- 五 監獄事務ニ關スルコト
- 第二十五條 望樓監督官ハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 所屬海軍望樓ノ所掌事務ヲ監督スルコト
  - 二 所屬海軍望樓ト鎮守府トノ連絡通信ニ關スルコト
  - 三 所屬海軍望樓ニ需品及糧食品ノ供給ニ關スルコト
  - 四 所屬海軍望樓ノ氣象觀測ニ就テハ測器庫主管ト連絡ヲ保タシムルコト

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第百三十四號

海軍人事部處務規程左ノ通定ム

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍人事部處務規程

- 第一條 人事部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 鎮守府在籍兵曹長同相當官准士官ノ人事及身上ニ關スルコト
  - 二 兵曹長同相當官准士官以下ノ履歷書及考課表ニ關スルコト
  - 三 兵曹長同相當官准士官以下ノ級位敘勳記章褒章賞與ニ關スルコト
  - 四 兵曹長同相當官准士官以下ノ學生練習生ニ關スルコト
  - 五 募兵及下士卒ノ服役身上ニ關スルコト

- 六 下士卒ノ任用進級増階免官免役ニ關スルコト
  - 七 下士卒ノ定員補充交代ニ關スルコト
  - 八 下士卒ノ家族扶助金支給原表ニ關スルコト
  - 九 下士卒ノ豫備役後備役編入ニ關スルコト
  - 十 下士卒ノ恩給ニ關スルコト
  - 十一 下士卒ノ召集及充員ニ關スルコト
  - 十二 前各號ノ諸報告及統計ニ關スルコト
  - 第二條 部長ハ部員ヲシテ事務ヲ分掌セシメ其ノ全般ノ整備ニ任シ機密及重要ナル事項ハ自ラ之ヲ掌ルヘシ
  - 第三條 部長ハ豫備役後備役下士卒ニシテ他鎮守府徵募區ニ屬スル者アルトキハ其ノ兵籍ヲ當該鎮守府ニ移スヘシ
  - 第四條 部長ハ免官免役又ハ死亡シタル下士卒ニ關スル書類ハ之ヲ別簿ト爲シ保存スヘシ
  - 第五條 部長ハ鎮守府在籍兵曹長同相當官准士官ノ命課又ハ下士卒ノ補充及充員ニ關シ應急ノ準備ヲ爲シ置クヘシ
  - 第六條 部長ハ募兵及召集兵ノ入團ニ際シ必要アルトキハ海兵團内ニ於テ執務スヘシ
  - 第七條 部長ハ左表ヲ定期ニ調製シ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ第一表第二表第六表及第七表ハ機密文書ノ取扱トシ別ニ各一通ヲ調製シ海軍軍令部長ニ進達スヘシ
- 人事部定期進達諸表
- |     |       |      |
|-----|-------|------|
| 第一表 | 現役下士調 | 毎月一日 |
| 第二表 | 現役卒調  | 同    |
| 第三表 | 下士異動調 | 同    |

第四表 卒異動調

第五表 證書證狀、善行章所有者及練習生調

第六表 豫備役(後備役)兵員調

第七表 平時戰時定員現員比較表

第八表 部長ハ左ノ簿册ヲ整備スヘシ

一 鎮守府在籍兵曹長同相當官准士官履歷簿

二 艦團其ノ他各部別兵曹長同相當官准士官名簿

三 現役下士官履歷簿

四 現役下士官總員名簿

五 艦團其ノ他各部別下士官名簿

六 各練習生卒業下士官名簿

七 補缺員名簿

八 豫備役後備役下士官名簿

九 豫備役後備役下士官履歷簿

履歷簿用紙ハ別紙様式ニ從ヒ各兵種別ニ編綴シ名簿ハ各兵種別官職順ニ列記シ増減異動アル毎ニ加除訂正シ索引ニ便ナラシムヘシ

附則 本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

鎮守府兵事官服務規程ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(各表及別紙様式略ス)

○海軍省達第百三十五號

旅順鎮守府處務規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第六條 司令長官ハ麾下ノ候補生兵曹長同相當官及准士官ニ一時轉勤ヲ命シタルトキ又ハ麾下ノ職員ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ候補生以上ニ在リテハ海軍大臣ニ報告シ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

第十四條ノ二 參謀長ハ鎮守府望樓監督官ニ準シ所屬海軍望樓ニ關スルコトヲ掌ル

第二十二條中主理ヲ「法務長」ニ改ム

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第百三十六號

海軍港務部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第五條 部長ハ部下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ鎮守府司令長官ニ、其ノ他ニ在リテハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第百三十七號

旅順海軍港務部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男齋藤實

明治四十二年十一月 海軍省第百三十五號 第百三十六號 第百三十七號

第五條 部長ハ部下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ兵曹長  
同相當官准士官ニ在リテハ旅順鎮守府司令長官ヲ經テ 佐世保鎮守府司令長官ニ、其ノ他ニ在リ  
テハ旅順鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第三百三十八號

要港部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條 司令官ハ要港部條例第十三條第十四條第十五條及第十七條ニ依リ臨時乗組ヲ命シ又ハ配  
置シタルトキハ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ所在海軍區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ通牒シ  
將校同相當官候補生ニ在リテハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五條ノ二 司令官ハ麾下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ  
前條ニ準シ報告スヘシ

第五條ノ三中第十三條ヲ第十五條ニ改ム

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第三百三十九號

艦隊職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條中第七條ヲ第八條ニ改ム

第十六條 司令長官ハ麾下ノ候補生兵曹長同相當官及准士官ニ一時轉勤ヲ命シタルトキ又ハ麾下ノ

ノ職員ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ候補生以上ニ在リテハ海軍大臣  
ニ報告シ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百十號

水雷團職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第四條 團長ハ水雷團條例第六條第七條ニ依リ准士官以上ヲ各隊ニ配置シ又ハ水雷母艦驅逐艦水  
雷艇潛水艇ニ乗組シメタルトキハ將校同相當官ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ、兵曹長同  
相當官准士官ニ在リテハ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第五條 團長ハ部下准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ  
將校同相當官ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ、兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ鎮守府司令  
長官ニ報告スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百一十一號

驅逐隊艇隊及驅逐艦水雷艇職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第七條 司令ハ部下准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキ並  
部下准士官以上ノ乗組ムヘキ艦艇ヲ指定シタルトキハ將校同相當官ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍

大臣ニ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ順序ヲ經テ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ  
第七條ノ二 司令ハ其ノ麾下各艦艇ノ定員ヲ超過セサル限り必要ニ應ニ隊内ノ下士卒ヲ互ニ轉勤  
セシムルコトヲ得

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十二號

潛水艇隊職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第六條 司令ハ部下准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキ並  
部下准士官以上ニ乗組ムヘキ艇ヲ指定シタルトキハ將校同相當官ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍大  
臣ニ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十三號

防備隊職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第六條 司令官ハ部下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ又ハ之ヲ解キタル  
トキハ將校同相當官ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ兵曹長同相當官准士官ニ在リテハ本  
人在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十四號

海軍軍人軍屬休暇規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第二十條 本則中兵曹長同相當官准士官ニ關シ所屬長官ヨリ發スル通報ハ本人在籍鎮守府ノ司令  
長官ヲ經由スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及候補生ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及候補生ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

第一條 將校同相當官及准士官ノ履歷書ハ正副三通トシ其ノ正本ハ海軍省人事局ニ其ノ副本ハ本  
人ノ所屬長官之ヲ保管スルモノトス



第十二條ノ二 人事部ニ於テ第六條第七條第八條及第十二條ニ依リ現役兵曹長同相當官及准士官ノ身上異動ニ關スル届出又ハ通報ヲ受理シタルトキハ漏ナク之ヲ人事局ニ通報スルモノトス

第十三條第三項トシテ左ノ一項ヲ加フ  
所管長官若ハ所轄長病氣引入届ノ初度轉地療養願又ハ出勤届全治届ヲ受理シタルトキハ候補生以上ニ在テハ同時ニ之ヲ人事局長ニ兵曹長同相當官准士官ニ在テハ在籍鎮守府ノ人事部長ニ電報スヘシ

本規則中「人事課」ヲ「人事局」ニ改ム

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百十六號

海軍兵曹長同相當官准士官配屬命課規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一條 海軍兵曹長同相當官准士官ノ兵籍ハ續須賀與佐世保舞鶴ノ四鎮守府ニ配屬シ各其ノ鎮守府在籍トス但シ軍樂長軍樂師ニ在リテハ續須賀鎮守府在籍トシ豫備役後備役退役ノ者ニ在リテハ海軍省在籍トス

第二條 海軍兵曹長同相當官准士官ノ豫備役後備役退役編入配屬及配屬ノ轉換ハ海軍大臣之ヲ行井其ノ命課ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ

鎮守府司令長官命課ヲ行井タルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ命課ノ通牒ヲ受ケタルトキ亦同シ

第三條 鎮守府司令長官ハ在籍ノ海軍兵曹長同相當官准士官ヲ以テ該鎮守府在籍艦船及所管海軍區内ニ在ル海軍各部ノ定員ヲ補充スヘシ

軍樂部ノ定員ハ續須賀鎮守府司令長官之ヲ補充シ關東州清國韓國ニ在ル海軍各部ノ定員ハ佐世保鎮守府司令長官之ヲ補充スヘシ

第四條 艦隊司令長官旗艦增加定員ノ補充ハ海軍大臣ノ指定シタル鎮守府ヨリ之ヲ補充スヘシ

第五條 各學校練習艦ノ教員ノ補充ハ前諸條ニ拘ラス校長若ハ艦長之ヲ選定シ木人在籍ノ鎮守府司令長官ニ申請スヘシ鎮守府司令長官ハ成ルヘク差繰リ其ノ申請ニ應スヘシ

第六條 艦船機裝ニ從事スル者ハ其ノ艦船ノ在籍鎮守府司令長官之ヲ補充スヘシ

第七條 艦團其ノ他各部ニ於テ特種ノ職務ニ充ツヘキ者若ハ特長ノ技能ヲ有スル者ヲ要スル場合ニ於テ之ニ適當ノ在籍者ヲ得ル能ハサルトキハ鎮守府司令長官ハ他ノ鎮守府司令長官ニ協議シ

一時他鎮守府在籍者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第八條 遠隔ノ地ニ在ル艦船ニ於テ急速ニ定員ノ補充ヲ要シ本籍鎮守府ヨリ補充スルノ違ナキトキハ鎮守府司令長官ハ他ノ鎮守府司令長官ニ協議シ一時他鎮守府在籍者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第九條 鎮守府司令長官ハ在籍者ニ待命休職停職ヲ命シタルトキハ事山ヲ具シ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ傷疾疾病ニ因ル者ハ事由ヲ具スルニ及ハス

第十條 鎮守府司令長官ハ相互ノ協議ニ依リ海軍兵曹長同相當官准士官ノ本籍ヲ轉換セムトスルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ニ上申スヘシ

前項ニ依リ本籍ヲ轉換セラレタル者ハ辭令ヲ用井其ノ命課ハ當然免セラレタルモノトス

第十一條 海軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ直接命課ヲ行フコトアルヘシ若海軍省ノ辭令ト鎮守府ノ辭令ト抵觸スルトキハ海軍省ノ辭令ニ從フモノトス

第十二條 鎮守府司令長官ハ在籍者中豫備役後備役ニ編入スヘキ者アルトキハ編入ノ日ノ一月前ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條 現役ヨリ豫備役後備役退役ニ編入セラレタル者ハ辭令ヲ用非ス其ノ本籍ハ當然海軍省ニ移ルモノトス

第十四條 豫備役後備役ヲ召集シタルトキ召集中ノ本籍ハ新ニ配屬シ前諸條ヲ適用ス

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年七月二十一日達第二百六十五號准士官職課辭令下附方ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍省達第四百七十七號

海軍武官待命休職停職者心得中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男齋藤實

第一條 待命休職停職タル將校同相當官ハ東京ニ滞在シ兵曹長同相當官及准士官ハ在籍ノ鎮守府所在地ニ滞在スヘシ但シ滞在ノ指定セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 待命休職停職タル將校同相當官ニシテ東京ニ滞在ノ者ハ海軍大臣ノ直轄トシ鎮守府所在地ニ滞在ノ者ハ當該鎮守府司令長官ノ所轄トシ兵曹長同相當官及准士官ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ノ所轄トス

第三條 待命休職停職者ニシテ滞在ノ必要生シタルトキハ將校同相當官ニ在リテハ海軍大臣ニ兵曹長同相當官及准士官ニ在リテハ在籍ノ鎮守府司令長官ニ出願シ之ヲ東京又ハ鎮守府所在地ニ轉スルコトヲ得

第七條 待命休職停職者ニシテ補職ノ辭令ヲ受ケタルトキハ速ニ出發シ將校同相當官ニ在リテハ海軍大臣ニ兵曹長同相當官及准士官ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ其ノ旨届出ツヘシ

セフレタルトキ又ハ滞在ノ地變更ノ許可ヲ受ケタルトキハ其滞在ノ地東京ニ在リテハ海軍省ニ其ノ他ニ在リテハ所在鎮守府ニ就キ第五條及第六條ヲ履行スヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省達第百八十一號海軍武官待命休職停職者心得(明治三十二年十一月一日抄録)

第一條 待命休職停職者ハ東京ニ滞在スヘシ但シ滞在ノ指定セラレタルモノハ此限ニアラス

第二條 待命休職停職者ハ海軍大臣ノ直轄トス但シ鎮守府所在地ニ滞在スルモノハ當該鎮守府司令長官ノ所轄トス

第三條 待命休職停職者ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ東京又ハ鎮守府所在地ニ滞在スルコトヲ得

第七條 待命休職停職者ニシテ補職ノ辭令ヲ受ケタルトキハ速ニ出發シ其ノ旨海軍大臣ニ届出ヘシ

○海軍省達第四百七十八號

海軍武官文官考課表規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男齋藤實

第二條 考課表ハ別表第一號ニ依リ一通ヲ調製ス但兵曹長同相當官准士官一等下士及判任文官ニ就テハ一通海軍省在勤ノ判任文官ニ就テハ一通ヲ調製スヘシ

第四條 第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ  
前項兵曹長同相當官准士官ノ考課表ニ在リテハ所屬長官ハ其ノ一通ヲ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第五條 一等下士ノ考課表ハ九月一日ノ現在所屬ニ就キ調製シ順序ヲ經テ九月三十日迄ニ本人在籍鎮守府司令長官ニ送付スルモノトシ各其所屬長官官署ニ送達シ又所屬長官ハ十月三十一日迄ニ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ送達スヘシ

第五條ノ二二三等下士ノ考課表ハ三月二日九月一日ノ現在所屬ニ就キ調製シ九月一日ニハ任用進ノ現在所屬ニ就キ調製シ九月一日ニハ任用進ノ現在所屬ニ就キ調製

シ順序ヲ經テ三月三十一日九月三十日迄ニ本人在籍鎮守府司令長官 旅順鎮守府司令長官 龍岡司令長官及獨立司令官ニ屬スル者ハ各其ニ進達スヘシ  
 任用資格ヲ有スル一等卒ニ就テハ前項ニ準シ考課表ヲ圖製スヘシ  
 第九條中第四條第五條及第六條ヲ前條ニ改ム  
 第十條第一號中第四條第五條第六條及第九條ノヲ削ル

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百十九號

海軍砲術學校規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十一條中順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシヲ將校ニ在リテハ海軍大臣ニ兵曹長上等兵曹ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシニ改ム  
 第十一條ノ二 兵曹長上等兵曹ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府ニ籍ヲ有スル兵曹長上等兵曹ニシテ特ニ砲術ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍砲術學校特修科學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ  
 第十九條ノ二 特修科學生タル兵曹長上等兵曹卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府ハ復歸セシムヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省達第四十一號海軍砲術學校規則(明治四十年四月二十二日)抄録

第十一條 海軍砲術學校條例第十七條第三號ニ依リ特修科學生タラント志願スル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

○海軍省達第五百十號

海軍水雷學校規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十一條中順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシヲ將校ニ在リテハ海軍大臣ニ兵曹長上等兵曹上等信號兵曹ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシニ改ム  
 第十一條ノ二 兵曹長上等兵曹上等信號兵曹ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府ニ籍ヲ有スル兵曹長上等兵曹上等信號兵曹ニシテ特ニ水雷術又ハ通信術ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍水雷學校特修科學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ  
 第十九條ノ二 特修科學生タル兵曹長上等兵曹上等信號兵曹卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府ハ復歸セシムヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省達第四十二號海軍水雷學校規則(明治四十年四月二十二日)抄録

第十一條 海軍水雷學校條例第十七條第三號ニ依リ特修科學生タラント志願スル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

○海軍省達第五百一十一號

海軍工機學校規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十一條中「順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ」ヲ「機關官ニ在リテハ海軍大臣ニ機關兵曹長船匠長上等機關兵曹及船匠師ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシ」ニ改ム

第十一條ノ二 機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師ヲ學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府ニ籍ヲ有スル機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師ニシテ特ニ機關術又ハ其ノ他ノ技術工藝ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍工機學校學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第二十條ノ二 學生タル機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府へ復歸セシムヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省達第四百三十三號海軍工機學校(明治四十年四月二十二日)抄録  
第十一條 海軍工機學校條例第十六條第二號ニ依リ學生タランコトヲ志願スル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

○海軍省達第五百十二號

海軍經理學校規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第九條ノ二 丙種學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス  
鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ其ノ鎮守府ニ籍ヲ有スル上等筆記中適當ト認ムル者ヲ選抜シ之ニ經理學校丙種學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告スルト同時ニ之ヲ海軍省經理局長ニ通報スヘシ

第九條ノ三 丙種學生タル上等筆記卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府へ復歸セシムヘシ

附則

本達ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第五百十三號

海軍港務部處務規程中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十二年十一月二十九日  
第一條第十六號ノ次ニ左ノ如ク加フ  
十七 豫備艦ノ陸揚物件保管ニ關スルコト

○海軍省達第五百十四號

海軍工廠處務細則中第二條第九號第三條第五號第五條第八號第七條第十號及第八條第九號ヲ削ル

○海軍省達第五百十五號

海軍省達第五百十五號  
履員備人規則第三條左表中水燈番人ノ欄馬公要港部ノ次ニ大湊要港部ヲ加フ

明治四十二年十一月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○陸達第五十四號  
陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月一日

陸軍大臣 子爵寺内正毅  
第四十一條第二項中「入院患者」ヲ「病院附下士以下及入院患者」ニ改メ第三項中「入院患者」ヲ「糧食給與ノ人員」ニ改ム

第十六表中第三區ノ區劃對馬ノ下ニ「小千谷」ヲ加ヘ第五區ノ區劃第十三「ヲ」ノ下ニ「小千谷」ヲ除クニ改ム

○陸達第五十五號

明治四十一年陸達第二十二號中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月四日

陸軍大臣 子爵寺内正毅  
名稱及位階中「元山」ヲ「羅南」ニ改ム

〔參照〕

明治四十一年三月三日陸達第二十二號ハ陸軍兵器支廠出張所設置ノ件ナリ

○陸達第五十六號

衛生材料取扱規則左ノ通改正ス

明治四十二年十二月十三日

衛生材料取扱規則

第一章 總則

第一條 平時及戰時ニ於ケル衛生材料ノ取扱ハ本規則ニ依ル

第二條 衛生材料ト稱スルハ治病、衛生ニ關スル器械、藥物、消耗品ヲ謂フ

器械トハ醫療器械、巡檢具等ヲ含ム。検査器械、試驗器械、調劑器械、鑿工器械ヲ謂ヒ藥物トハ醫療

藥、試験藥、消毒藥及療養品ヲ謂ヒ消耗品トハ醫療用消耗品、試驗用消耗品、副用消耗品及廢工用消耗品ヲ謂フ

第三條 衛生材料ヲ分チテ戰用及常用ノ二種トシ戰用衛生材料中ニハ豫備品ヲ置キ常用衛生材料中ニハ必要ニ應シ演習用品ヲ置クコトヲ得

第四條 本規則ニ於テ新調ト稱スルハ購買若ハ製造スルヲ謂ヒ修理ト稱スルハ器械ノ一部ヲ修繕シ若ハ調製補足スルヲ謂フ

第五條 常用衛生材料ノ取扱ニ付テハ本規則ノ外物品會計ニ關スル規定ニ依ル

第二章 管理、保管  
第六條 戰用衛生材料（豫備品）ハ貯藏部隊ノ所管長官（東京第一衛戍病院及習志野衛戍病院貯藏ノ管理シ貯藏部隊長之ヲ保管ス）

第七條 戰用衛生材料豫備品ハ陸軍省醫務局長之ヲ管理シ陸軍衛生材料廠長之ヲ保管ス但シ必要ニ應シ衛戍病院長、關東若ハ韓國駐節陸軍倉庫長ヲシテ其ノ一部ヲ保管セシムルコトヲ得

第八條 戰用衛生材料ノ管理者ハ戰用品ノ出納命令ヲ發シ且其ノ整備、保全ヲ圖リ保管者ノ行務ヲ規定スヘシ

戰用衛生材料ノ保管者ハ其ノ保全及出納ニ付一切ノ責任ヲ管理若シテ命令アルニ非サレハ之ヲ出納スルコトヲ得ス

第九條 常用衛生材料中衛戍病院、關東若ハ韓國駐節陸軍倉庫ニ關スルモノハ衛戍病院長、關東若ハ韓國駐節陸軍倉庫長之ヲ管理シ病院又ハ倉庫附藥劑官（藥劑官アラサルモノハ軍醫ヲシテ保管セシムル病院ヨリ軍隊官衛學校ニ配附シタルモノハ軍隊官衛學校ノ長部下ノ責任アル者ヲシテ之ヲ監守セシム）

### 第三章 検査

第十條 衛生材料ノ検査ヲ分チテ定期及臨時ノ二種トシ定期検査ハ專ラ戰用衛生材料、臨時検査ハ戰用及常用衛生材料ニ付之ヲ行フモノトス

検査ハ主トシテ左記各號ノ事項ヲ検査スルモノトス

- 一 品質及製作ノ良否
- 二 定數ニ對スル過不足
- 三 貯藏及保全法ノ適否
- 四 新陳交換及出納ノ狀況
- 五 廢品處分ノ當否
- 六 内容品充實ノ方法順序
- 七 消耗品消費ノ狀況

第十一條 定期検査ハ毎年一回管理者之ヲ行フ但シ衛戍病院長、關東若ハ韓國駐節陸軍倉庫長ノ保管スル戰用衛生材料豫備品ニ付テハ陸軍衛生材料廠長ヲシテ右ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

臨時検査ハ陸軍大臣検査官ヲ命シテ陸軍全部若ハ其ノ一部ニ付之ヲ行ハシム  
前二項ノ検査ヲ行ヒタルトキハ管理者又ハ検査官ヨリ各其ノ成績ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

### 第四章 制式、定數

第十二條 衛生材料ノ制式ハ陸軍衛生材料廠ノ模範品ニ依ル但シ同廠ニ模範品ナキモノハ陸軍省醫務局長之ヲ指定ス

第十三條 器械ニシテ供給上ノ必要ニ依リ制式ニ從フコト能ハサル場合ニ在リテハ衛戍病院長、關東若ハ韓國駐節陸軍倉庫長ハ所管軍醫部長、陸軍衛生材料廠長ハ陸軍省醫務局長ノ承認ヲ受

第十四條 藥物ハ陸軍藥局方以外ノモノヲ購買又ハ製造スヘカラス但シ醫療藥ニシテ陸軍省醫務局長ノ承認ヲ經タルモノ及試驗藥、療養品ニシテ所管軍醫部長ノ承認ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 戰用衛生材料ノ定數ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十六條 常用衛生材料中器械ハ第一表及第二表器械中ノ内容及附屬品ハ附表ニ依ル藥物ノ品目ハ病院ニ在リテハ陸軍藥局方、其ノ他ニ在リテハ第三表消耗品ノ品目ハ病院ニ在リテハ第四表乙、其ノ他ニ在リテハ第四表甲ニ依ル

重砲兵射擊學校、廢兵院ノ醫療器械、檢査器械、調劑器械ハ四等衛戍病院ノ定數以內トシ、藥物、消耗品ニ付テハ病院ニ準ス

陸軍運輸部本部ノ檢疫消毒業務ニ要スル衛生材料ハ廣島衛戍病院ヨリ必要ニ應シ配附、支給ス

第十七條 臺灣、韓國及南滿洲ニ於ケル諸部隊ノ常用衛生材料中器械ハ臺灣總督、韓國駐軍司令官、關東都督各當該軍醫部長ヲシテ第二表ノ定數以內ニ於テ適宜配附セシムルモノトス

第十八條 軍隊、官衙、學校ニ於テ第三表ノ藥物及第四表甲ノ消耗品以外ノモノヲ要スルトキハ所管軍醫部長ノ承認ヲ經テ之ヲ使用スルコトヲ得

第十九條 傳染病流行ノ際特ニ多量ヲ要スヘキ藥物ハ病院ニ於テ常ニ貯藏スルモノトス其ノ品目、數量ハ第五表ニ依ル

第五章 新調、修理

第二十條 衛生材料ノ新調、修理ハ衛戍病院、陸軍衛生材料廠、關東若ハ韓國駐軍陸軍倉庫ニ於テス

衛戍病院、關東若ハ韓國駐軍陸軍倉庫所在地ニ於テ新調、修理シ能ハサル衛生材料ハ他ノ衛戍病院若ハ陸軍衛生材料廠ニ其ノ新調、修理ヲ依託スルコトヲ得

衛生材料中特種品ハ總テ陸軍衛生材料廠ニ於テ製作若ハ調辦ス其ノ品種ハ陸軍省醫務局長之ヲ定ム

第二十一條 演習等ニ使用シタル戰用衛生材料常用衛生材料中演習用品共ノ損失ニ係ル新調、修理ノ經費ハ當該部隊ノ支辨トス

第六章 配附、支給、返納交換

第二十二條 軍隊、官衙、學校ニ要スル常用衛生材料ハ所在地若ハ最寄衛戍病院東京ニ在リテハ忠清醫院、他ヨリ配附、支給シ衛戍病院ニ要スルモノハ病院自ラ之ヲ支辨シ又ハ陸軍衛生材料廠、關東若ハ韓國駐軍陸軍倉庫ヨリ其ノ支給ヲ受ケ

第二十三條 師團軍醫部長、臺灣總督府陸軍醫部長ハ毎年一月盡日迄ニ其ノ管内翌年度ニ於ケル特種品ノ所要見込額第七師團ニ在リテハ樺太、第七師團ニ在リテハ樺太、第七師團ニ在リテハ樺太ヲ陸軍省醫務局長ニ報告シ陸軍省醫務局長ハ陸軍衛生材料廠長ヲシテ支給セシムルモノトス

特種品中前項ノ報告期日迄ニ所要見込ヲ定メ難キモノハ所要部隊ノ令達豫算內ニ於テ陸軍衛生材料廠ニ製作若ハ購買ヲ依託スヘシ

第二十四條 樺太守備隊司令部、關東都督府、韓國駐軍司令部管内ニ於ケル諸部隊ノ衛生材料中追送ヲ要スルモノハ其ノ都度當該軍醫部長樺太ニ在リテハ第七師團軍醫部長、關東若ハ韓國駐軍陸軍倉庫ニ在リテハ第七師團軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長ニ請求シ陸軍省醫務局長ハ陸軍衛生材料廠長ヲシテ之ヲ支給セシムルモノトス

第二十五條 軍隊、官衙、學校ニ於テ演習等ノ必要ニ依リ戰用衛生材料ヲ使用セムトスルトキハ管理若ハ認可ヲ得テ保管者ニ請求スヘシ

第二十六條 動員ニ際シ一時閉鎖シタル官衙、學校並動員シタル軍隊ニ於ケル常用衛生材料ハ品目數量書ヲ添ヘ病院へ返納スヘシ

第二十七條 戰用衛生材料内容品ノ新陳交換ハ貯藏部隊ノ常用衛生材料ヲ以テス但シ貯藏部隊ニ於テ新陳交換ノ途ナキモノハ其ノ保全ニ努メ實際戰用ニ堪ヘサルニ至リ當該部隊ノ經費ヲ以テ

之カ更新ヲ圖ルモノトス

第七章 過剩品、廢品

第二十八條 定數若ハ制式改正等ノ爲生シタル衛生材料過剩品ニシテ戰用ニ充ツヘキモノハ戰用衛生材料豫備品ニ移スモノトス但シ其ノ品種等ハ陸軍省醫務局長之ヲ定ム

第二十九條 衛生材料ノ保存期限ハ之ヲ定メス修理若ハ再製ヲ爲スモ其ノ用ニ堪ヘサルカ又ハ得失相償ハスト認ムルモノハ廢品トス

取扱上ニ係ル藥物量目ノ減耗ハ百分ノ七以内ヲ公差トス

第三十條 戰用衛生材料中廢品ニ屬スルモノ及定數、制式等改正ノ爲生シタル過剩品ニシテ全ク不用ニ歸シタルモノハ管理者ニ於テ適宜處分スルコトヲ得

(諸表ハ略ス)

○陸軍部第五十七號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月二十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第六條中「第七師管」ヲ「第二師管」ニ改ム

第十四條 防塞用薪炭ノ發方期限ハ每年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トシ其ノ標準額ハ滿洲

韓國樺太駐劄陸軍部隊給與令細則第九表ノ甲及乙ニ依ル但シ宿舎ニ要スル防塞用薪炭ハ總テ代金ヲ以テ之ヲ給ス

第十七條中「糧食現品」ヲ「第五條第一項第一號及第二號ノ區分ニ依リ糧食」ニ改ム

○陸軍部第五十八號

三十一年式連射野山砲砲履履歴表編纂規則並七瑯米野山砲砲履履歴表編纂規則ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十二月二十八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○海軍省達第五百十六號

海軍省印規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條中「經理部」ノ下ニ「人事部」ヲ加ヘ第三條中「兵事官」ヲ刪除ス

○海軍省達第五百十七號

兵器造修試驗檢査規則中第二十九條第三ヲ左ノ通り改ム

明治四十二年十二月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

三、水中發射管

靜止中

速力十二節

速力十四節

速力十七節

速力二十節

自然通風全力

但シ公試委員ニ於テ事情已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ右ノ一部ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合

ニハ公試成績表ニ其ノ理由ヲ詳記スヘシ

○海軍省達第五百十八號

海軍工廠處務細則中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條但書ヲ削ル

第二條ノ二 砲類部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル



- 一 砲熗及其ノ屬具ノ製造圖、製造方法書、製造說明書、制式圖案調製及其ノ工事ニ關スル入費概算等ノ調製ニ關スルコト
  - 二 砲熗及其ノ屬具ノ設計、構造、製造、改造、修理、裝備、試驗ニ關スルコト
  - 三 內國私立工場ニ委託セル砲熗及其ノ屬具ノ工事監督ニ關スルコト
  - 四 砲熗及其ノ屬具ノ授受及其ノ整理ニ關スルコト
  - 五 所屬工場ノ造修工事ニ關スルコト
  - 六 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ整備ニ關スルコト
  - 七 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ保存期限及入費概算ニ關スルコト
  - 八 未成艦ニ裝備シアル砲熗及其ノ屬具ヲ保管スルコト
- 第二條ノ三 水雷部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 水雷及其ノ屬具並電氣器具ノ製造圖、製造方法書、製造說明書、制式圖案調製及其ノ工事ニ關スル入費概算等ノ調製ニ關スルコト
  - 二 水雷及其ノ屬具並電氣器具ノ設計、構造、製造、改造、修理、裝備、試驗ニ關スルコト
  - 三 內國私立工場ニ委託セル水雷及其ノ屬具並電氣器具ノ工事監督ニ關スルコト
  - 四 水雷及其ノ屬具並電氣器具ノ授受及其ノ整理ニ關スルコト
  - 五 所屬工場ノ造修工事ニ關スルコト
  - 六 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ整備ニ關スルコト
  - 七 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ保存期限及入費概算ニ關スルコト
  - 八 未成艦ニ裝備シアル水雷及其ノ屬具並電氣器具ヲ保管スルコト
- 第四條及第四條ノ二中、吳海軍工廠ヲ削ル

附則

本達ハ明治四十三年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第五百十九號

海軍工廠工務規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月十日

第一條 海軍工廠ニ左ノ工場ヲ置ク

造船部工場

造機部工場

造兵部工場

砲熗部工場

水雷部工場

製鋼部工場

附則

但橫須賀、佐世保及舞鶴海軍工廠ニ限ル

但吳海軍工廠ニ限ル

但同

但同

本達ハ明治四十三年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第六十號

海軍工廠日誌丙及丁別冊ノ通定、但シ別冊ハ海軍總政本部ヲシテ必要ノ向ニ配賦セシム

本達ハ明治四十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十二月十一日

○海軍省達第六十一號

機關年報並機關日誌取扱及記載心得中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條ヲ左ノ通改ム

第三條 機關日誌ハ軍艦機關日誌、驅逐艦水雷艇機關日誌ノ二様式トシ共ニ正本及副本(副本中機關摘要、汽走表(甲)、雷品及豫備品表、備考表ノ各欄ニ切り取り)ヲ設ケ機關日誌摘要ノ作製ニ供フヲ設ク又軍艦機關日誌ハ正本副本共ニ甲、乙、丙、丁ニ區別シ甲ハ一臺若クハ二臺ノ吸鑄式主機械ヲ備フル軍艦ニ乙ハ二臺ノ吸鑄式主機械ヲ備フル軍艦ニ丙ハ「カーテス、タルビン」式主機械ヲ備フル軍艦ニ丁ハ「バーソンス、タルビン」式主機械ヲ備フル軍艦ニ適用ス

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 機關年報及機關日誌ノ記載ハ艦艇乗員始メテ任命セラレシ時ヨリ始メ艦艇籍ヨリ除カル、迄之ヲ繼續スルモノトシ豫備艦艇ニシテ定員ヲ置カレサル場合ニハ直接本艦艇ヲ保管スルモノ記載ノ事ヲ掌ルヘシ

但シ定員ヲ置カレサル豫備艦艇及未成艦艇ニ在テハ適宜記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十四條ノ二 軍艦機關日誌丙ニ於ケル每一時間蒸氣壓力欄内主蒸氣ノ野内ニハ加減弁通過後ノ壓力ヲ記入スルモノトス

第二十五條ヲ左ノ通改ム

第二十五條 每一時間身圍蒸氣壓力(軍艦機關日誌丁ニ在テハ每一時間「タルビン」蒸氣壓力)ハ听或ハ時其ノ何レヲ記入セシヤヲ明瞭ナラシムル爲メ時ニハ「マイナス」符ヲ附記スヘシ

第二十六條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十六條ノ二 軍艦機關日誌丙ニ於テ每一時間第一段落蒸氣噴口使用數ハ分數 $\frac{使用數}{分數}$ ニテ記入スルモノトス

第二十六條ノ三 每一時間主抽氣唧筒(軍艦機關日誌丙ニテハ真空唧筒)回轉數及毎四時間主送水機械回轉數ニハ唧筒ノ使用臺數ヲ明瞭ナラシムル爲メ其ノ右肩ニ(1)(二臺)(2)(二臺)(3)(三臺)(4)(四臺)等ノ數字ヲ小記スヘシ

第三十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十二條ノ二 軍艦機關日誌丙及丁ニ於ケル毎四時間主「タルビン」遊隙ハ主「タルビン」使用中容易ニ計測シ得ルモノニ限リ航海中四時間毎ニ計測記入スルモノトス

第三十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

航海中ニ在テハ四時間毎ニ一回碇泊中ニ在テハ午前八時及午後八時ノ二回機關室船底「ピルヂ」ノ深サ(最高)ヲ記事欄内ニ記入スヘシ

第三十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ軍艦機關日誌丁ニ在テハ補助機械ノ使用等ニ關スル記事ハ記事欄内ニ區別記載スヘシ

第三十七條ヲ左ノ通改ム

第三十七條 每一時間及毎四時間欄内ニ於ケル諸項目特別記事欄内原速、抜錨、投錨時刻及欄外平均吃水、船底ノ淨否ハ機關ヲ使用セシ際記入ヲ要スルモノニシテ碇泊中ニ在テハ左ノ事項ヲ記入スルモノトス

溫度(甲板主復水器ノ排出海水及給水ノ際ク) 午前八時午後四時

補給用海水現量 午前八時午後四時

使用發電機ノ電流量 午前八時午後四時及午後八時

海水及給水ノ濃分 午前八時午後四時

主「タルビン」遊隙 主「タルビン」使用ノ前後及之カ調整計測等ヲ行ヒタル時

○海軍省達第百六十二號

艦營用品經理規程別表第二號中艦隊達摘錄及要港部達摘錄ヲ削除ス

明治四十二年十二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百六十三號

艦營用品經理規程別表第一號第二種消耗品品名表中「掃布」ヲ削除シ左ノ品目ヲ追加ス

掃除服頭巾

保護軟鋼板

保護鑄鐵板

明治四十二年十二月二十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百六十四號

海軍無線電報取扱規程附表第一中砲艦ノ部赤城ノ符號G A IヲG A Rニ改ム

明治四十二年十二月二十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百六十五號

海軍喇叭操式別冊ノ通定ム

別冊ハ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配附セシム

明治四十二年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百六十六號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三十五條ノ二中小銃射擊優等章ノ下ニ汽釀優等徽章汽釀優等章ヲ加フ

○海軍省達第百六十七號

明治四十二年達第百二十九號ハ明治四十三年十一月末日限り之ヲ廢ス

明治四十二年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

明治四十二年十一月六日海軍省達第百二十九號ハ焚火術獎勵ノタメ職狀授與ノ件ナリ

○海軍省達第百六十八號

海軍少尉候補生實務練習規則中左ノ通改ム

明治四十二年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條第二號ヲ左ノ通改ム

二 水雷術

發射管教練、發射管及探照燈ノ構造及使用方法、電氣通信機及無線電信機ノ取扱概要其ノ他水

雷長主管ニ屬スル兵器ノ種別用途、魚形水雷發射、掃海

魚形水雷發射及掃海ノ發火ヲ左ノ通定ム

掃海	魚形水雷發射	作業稱呼		主ナル目的	發射回数及發火筒數
		施行方法	施行方法		
鈎附鐵力(大)ヲ用ヒテ實地ニ施行ス	本艦航行標的移動	本艦靜止、標的靜止	發射ノ際ニ於ケル	發射管一門ニ付	一回
		本艦靜止、標的移動	魚形水雷及發射管		
		本艦航行、標的靜止	ノ狀態方位置使用		
		本艦航行、標的移動	會得セシム		
鈎剛鐵力(小)ヲ用ヒテ實地ニ施行ス	同	同	同	同	同
鈎剛鐵力(大)ヲ用ヒテ實地ニ施行ス	同	同	同	同	同
作業及水中爆發ノ狀況ヲ會得セシム	候補生二十五人ニ付二箇二十	同	同	同	同
	五人ニ付タサルトキ亦同シ	同	同	同	同
	候補生五十八人ニ付キ二箇	同	同	同	同
	人ニ付タサルトキ亦同シ	同	同	同	同

第四條 練習艦ノ艦長ハ部下將校及機關官ヲシテ實務練習ノ指導官ヲラシメ教科了ノ後試験ヲ

行ヒ左記ノ點數ニ基キ其ノ成績ヲ調査スヘシ

砲術	全	點	海軍兵學校卒業成績全點ノ百分ノ五
水雷術	全	點	同
運用術	全	點	同
航海術	全	點	百分ノ一〇
機關術	全	點	百分ノ三
部署及法令	全	點	百分ノ五
勤務	全	點	百分ノ五
勤務	全	點	百分ノ一二

右諸科目ノ中航海術ノ實測ハ別ニ試験ヲ行ハス練習中ニ得タル點數ヲ本試験ノ成績トス又勤務成績ニ就テハ別ニ試験ヲ行ハス平素ノ實績ニ就テ相當ノ評點ヲ附與スルモノニシテ艦長ハ副長航海長砲術長水雷長機關長分隊長其ノ他必要ト認ムル諸官ヲ會同シ之ヲシテ各自ニ兵學校卒業成績全點ノ百分ノ十二ヨリ百分ノ五ニ至ル迄ノ評點ヲ附セシメ之ヲ參考トシテ其ノ成績ヲ決定スヘシ

左記ハ本海軍省第二十六號第一二第四條以下ハ追テ補充スルアル條項ナリ

○海軍省第二十六號ノ二(明治四十二年十一月二十四日)

海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則

第四章 綿火藥

第六十五條 乾綿火藥ハ濕綿火藥ト同庫ニ貯藏スヘカラス若シ同庫中ニ貯藏ノ必要アルトキハ内

部ニ區劃ヲ設クルヲ要ス

第六十六條 乾綿火藥庫ハ可成乾燥ニ保タシムルヲ要ス

第六十七條 綿火藥庫ハ可成高湿度ニ上ラシメサレ様注意スヘシ然レトモ火藥庫ノ溫度若シ九十

度以上ニ上リタルトキハ第五十六條ニ依リ處理スヘシ

第六十八條 綿火藥ハ光線ノ爲メ分解スルノ恐レアルヲ以テ可成暗所ニ貯藏スルヲ要ス

第六十九條 乾綿火藥ノ濕氣百分ノ三以上ニ上リタルトキハ之ヲ乾燥器ニ入レ華氏百十二度以下

ノ溫度ニテ乾燥シ若シ影干シテ百分ノ二以内ノ濕氣ヲラシムルヲ要ス

第七十條 濕綿火藥中百分ノ十以内ニ乾燥シタルモノアルトキハ之ニ清水ヲ吸收セシメ又ハ百

分ノ二十以上ノ濕氣ヲ含有スルモノアルトキハ之ヲ乾燥シ濕綿火藥ヲシテ常ニ百分ノ十乃至二

十ノ濕氣ヲ含有セシムルヲ要ス又綿火藥裝填ノ魚形水雷頭部ハ其ノ重量固有ノ重量ニ比シニ

「パーセント」以上ノ濕量ヲ來シタル場合ニハ清水ヲ注入シ固有ノ重量ヲ保持セシムヘシ

第七十一條 綿火藥中外面ニ斑紋等ヲ呈シ若シ分解ノ徵候ヲ示スモノアルトキハ之ヲ取り出シ速

ニ清水ニ投入シ検査ヲ受クヘシ

第七十二條 綿火藥管內ニ炭酸瓦斯發生スルコトアリ是レ綿火藥損敗ノ徵候ニアラサルヲ以テ敢

テ塞ナシト雖モ若シ氣密管內ニ之ヲ堆積セシムルトキハ終ニ高壓ニ達シ綿火藥管ニ漏口ヲ生ス

ルニ至ルコトアルヲ以テ毎年一回開閉若ハ瓦斯抜ヲ開クヲ要ス綿火藥裝填ノ魚形水雷頭部モ亦

之ニ準ス

明治四十二年十二月 海軍省第二十六號ノ二 海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則

第七十三條 縮火藥箱ノ積載方ハ第四十九條第五十條ニ準スヘシ

第七十四條 縮火藥ヲ遠距離ニ運搬スルニハ可成濕縮火藥トナスヲ可トス

第七十五條 縮火藥ハ炎暑ノ候ニ在リテハ可成日中ニ屋外ノ運搬ヲ避クヘシ又運搬ノ際ハ日光ノ直射ヲ防ク爲メ必ス容器ニ毛布ヲ覆フヘシ

第七十六條 縮火藥中ニ不良品ヲ生シタルトキハ速ニ之ヲ水中ニ浸シ兵器經理規程ニ依リ處理スヘシ

第五章 信管、火管、雷管類

第七十七條 電氣火管、海中爆發信管ノ如ク破損シ易キ電橋ヲ有スルカ又ハ信管、摩擦管、火管、雷管等ノ如ク發火シ易キ雷粉又ハ發藥ヲ有スルモノハ特ニ注意シテ出納シ決シテ粗暴ニ取扱フヘカラス

第七十八條 信管、火管類ハ特別ノ場合ヲ除ク外決シテ裝藥、火藥ト同所ニ貯藏スヘカラス

第七十九條 信管、火管類ヲ格納スヘキ庫ハ最モ能ク乾燥セシムル様注意スヘシ

第八十條 信管、火管類ヲ格納シタル庫ハ可成氷點以下ノ低溫度ニ冷却セシム可カラス

第八十一條 信管、火管類ハ可成氣力罐ニ收メ而シテ之ヲ更ニ木筐ニ收ムルヲ可トシ氣力罐ニハ品名、員數、製造所名、填充所名、製造或ハ填充年月等ヲ記入シ置クヘシ

第八十二條 信管、火管類ノ運搬ニ際シテハ充分ニ動搖ヲ豫防シ必要ニ應ジ内部ノ空隙ニ藥包紙等ヲ填充スルヲ要ス

第八十三條 信管、火管類ハ若シ自發スルコトアルモ其ノ損害ヲシテ可成輕少ニ止マラシムル様格納スルヲ要ス

第八十四條 電氣火管、海中爆發信管等ノ如ク其ノ内部ニ縮火藥ヲ含有スルモノハ高溫度ノ庫内ニ格納スヘカラス是レ内容ノ縮火藥ハ假令少量ト雖モ或ハ分解シ終ニ自發スルコトナキヲ保セ

サルカ爲メナリ

第八十五條 電氣火管ハ點火力ノ外尙之ヲ分解シ内部ノ状態ヲモ検査セシムルヲ要ス

第六章 救難浮標用料藥罐及發光器

第八十六條 救難浮標用料藥罐及發光器ハ燐化石灰ヲ有シ普通火工品ト大ニ異ナルモノナルカ故ニ普通火工品ト隔離シ置クヲ要ス但シ乾燥セル場所ニ之ヲ貯フルコトニ注意スヘシ

第八十七條 救難浮標用料藥罐及發光器ノ貯藏中繼キ目等ニ間隙ヲ生スル時ハ一種不快ノ異臭ヲ洩シ容易ニ覺知シ得ルヲ以テ時々異臭ノ有無ヲ監査シ若シ臭氣ノ漏洩スルヲ覺知シタルトキハ速ニ臨時検査ヲ受クヘシ

損品ヲ其ノ儘貯藏シ置クトキハ雨天又ハ濕氣多キ日ニ於テ自ラ火ヲ發スルコトアリ特ニ注意スヘシ

第八十八條 救難浮標用料藥罐及發光器ハ毀損等ヲ生セサラシムル爲メ箱内ニ格納スヘシ

第八十九條 料藥ヲ赤手ニテ取扱ヒタル者ハ石鹼ニテ手ヲ洗淨スヘシ

法令全書

告示

○鐵道院告示第一號

東京市神田區西今川町八番地ニ市内營業所ヲ設置シ明治四十二年一月十五日ヨリ乘車券類ノ發賣手小荷物ノ受託及鐵道ノ連絡船車ノ接續其他一般旅客貨物ニ關スル各種案内等ノ事務ヲ取扱ハシム

明治四十二年一月七日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第二號

明治四十二年一月十日限リ東部鐵道管理局内福島仙臺青森秋田及兩國ノ各營業事務所ヲ廢止ス

明治四十二年一月九日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第三號

明治四十二年十二月十二日鐵道院告示第四號鐵道管理局管内各事務所ノ名稱位置及所管區域ノ内福島出納事務所ノ所管區域中矢幅富岡間ヲ矢幅草野間ニ改ム

明治四十二年二月九日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第四號

大阪市内營業所ニ於テ明治四十二年一月十五日ヨリ速達便扱貨物ノ受託ニ關スル事務ヲ取扱ハシ

明治四十二年一月十五日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第五號

明治四十二年一月二十一日限リ西部鐵道管理局内湊町廣島及下關ノ各營業事務所ヲ廢止ス

明治四十二年一月十九日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○内務省告示第一號

右日本帝國へ歸化ヲ允許セリ

明治四十二年一月十二日

神奈川縣橫須賀市若松四十三番地居住  
米國人 エステラ、フィンチ  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第二號

一明治四十二年九星早見 一册

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十二年一月十二日

京都市宮小路三條 安部合助 發行  
上ル五十六番屋敷  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第三號

一しんぱん かぞえうた 一葉

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月十二日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月十三日

山口縣熊毛郡麻郷村 岡崎徳三郎 發行  
第四百四十二番地

○内務省告示第四號

一明治四十二年九星早見 一册

一明治四十二年九星早見 一册

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十二年一月十四日

大坂市南區日 萬井倉吉 發行  
本橋通北詰  
一丁目五百番屋敷 岡本繁松 發行  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第五號

明治三十年法律第二十九號砂防法第二條ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止制限スヘキ土地左ノ通指定ス

明治四十二年一月十四日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

滋賀縣

地名 村名 大字名 字名 小字名 同 同 同 同 平藏崩

○内務省告示第六號

一農業便覽 明治四十二年 一葉

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十二年一月十六日

熊本縣下益城郡限生 秋山梅谷 發行  
町三百八十七番地  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第七號

一談抄 一册

一唐琴屋丹治郎 一册

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月十五日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月十六日

大坂市東區船場町 中川清次郎 發行  
四丁目三十八番邸  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第八號

一妻君の自白 宮崎湖屋子著 一册

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月十六日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月十八日

京都市日本橋區馬喰 瀧川民治郎 發行  
町三丁目十四番地  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第九號

明治三十九年五月内務省告示第五十七號北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方第二條ノ末尾ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月十九日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

日本西廻汽船商會ノ汽船 頭等行 客員五拾餘引

三月中伏木港ヨリ五十名以上乗船ノ場合ニ限ル 小樽行 函館引

○内務省告示第十號

一家庭新童話集

一册

秋田縣秋田市楡山 本新町十七番地 木村喜樂軒 發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月十八日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月十九日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第十一號

一明治四十二年九星早見 一册

京都市宮小路二條 上ル十六番屋敷 山本太郎 發行

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十二年一月二十三日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第十二號

一平民の友 一册

埼玉縣北足立郡 片柳村字東新井 白倉甲子造 發行

くらじを樂にする法

右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月二十三日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月二十五日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第十三號

一男女造化機論

一册

大坂市南區鹽町四 丁目二百一十一番地 矢島嘉平次 發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年一月二十六日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年一月二十七日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第十四號

郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域表中佐賀縣ノ次ニ左ノ通り熊本縣ノ部ヲ加ヘ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年一月二十九日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

府縣	署名	管轄	區域
熊本	熊本市一區	熊本市一區	熊本市一區
	熊本市二區	熊本市二區	熊本市二區
熊	熊本市一區	熊本市一區	熊本市一區
	熊本市二區	熊本市二區	熊本市二區
	熊本市三區	熊本市三區	熊本市三區
	熊本市四區	熊本市四區	熊本市四區
	熊本市五區	熊本市五區	熊本市五區
	熊本市六區	熊本市六區	熊本市六區
	熊本市七區	熊本市七區	熊本市七區
	熊本市八區	熊本市八區	熊本市八區
	熊本市九區	熊本市九區	熊本市九區
	熊本市十區	熊本市十區	熊本市十區
	熊本市十一區	熊本市十一區	熊本市十一區
	熊本市十二區	熊本市十二區	熊本市十二區



本		縣			
限府警察署	宮地警察署	松橋警察署	三角警察署	本渡警察署	本渡警察署
菊池郡内	阿蘇郡内	下益城郡内	宇土郡内	宇土郡内	久玉村
旭野村	南小園村	守宮村	宇土町	松合村	宮地岳村
花房村	菅尾村	小野部田	西砥用村	登立村	大多尾村
津田村	長陽村	山田村	宇土町	維和村	中田村
合志村	馬見原町	中通村	東砥用村	大岳村	牛深町
錦野村	北小園村	古城村	花園村	那浦村	宮津村
田島村	産山村	豊田村	不知火村	中村	
山田村	高森町	當尾村	緑川村	上村	
水原村	波野村	松橋町	海東村	戸馳村	
加茂川村	野尻村	豊野村	豊野村	湯島村	
龍門村	色見村	中山村	網津村	網津村	
岩門村	尾石村				
追間村					
城北村					
限府町					
瀬田村					
北合志村					

○大藏省告示第一號

明治四十二年二月一日ヨリ同月二十八日マテ税關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

但本表所掲ノ外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ従前ノ通  
明治四十二年一月四日  
大藏大臣 侯爵桂太郎

内外貨幣比較表

外 國 貨	幣				日 本 金 貨
	上海一兩	天津一兩	漢口一兩	一圓	
清 國 兩	○九五	一五八	一一二	一一二	
墨 西 哥 弗 銀	八二五				
英 吉 利 弗 銀	八三一				
香 港 弗 銀	八三一				
英 領 印 度 貨	六五三				
暹 羅 貨	七三五				

○大藏省告示第二號  
札幌稅務監督局管内室蘭稅務署ヲ明治四十二年一月五日北海道室蘭郡室蘭町字千歲町三番地へ移

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十二年一月 告示 大藏省第三號

八

○大藏省告示第三號

減失又ハ紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券ノ利札左ノ如シ

明治四十二年一月十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

證券種類	額面金額	記號	番號	利子仕拂期	利金仕拂濟年月日
整理公債證券	五拾圓	〇	六五八〇	明治四十年十二月	明治四十二年八月二十九日
同	同	〇	九〇四	同	同
同	同	〇	五〇八〇	同	同
同	同	〇	五七八〇五	同	同
同	同	〇	五〇五四	同	同
軍事公債證券	五拾圓	〇	五九〇九	自同三十六年十二月 至同四十六年六月	同四十二年八月二十八日
同	同	〇	五〇八九	同四十年六月	同四十一年八月五日
同	同	〇	五八七〇	自同三十九年十二月 至同四十二年六月	同四十一年八月二十七日
同	同	〇	五〇〇八	同四十年十二月	同四十一年八月十四日
同	同	〇	五〇〇五七	同三十七年六月	同四十一年八月一日
同	同	〇	五〇六八五	自同三十六年六月 至同四十六年六月	同四十一年八月二十八日
同	同	〇	五〇七〇	自同四十二年六月 至同四十七年六月	同四十一年八月三十一日
同	同	〇	五〇六九六	自同三十七年六月 至同四十七年六月	同四十一年八月六日

○大藏省告示第四號

紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券ノ利札左ノ如シ

明治四十二年一月十四日

大藏大臣 侯爵桂太郎

證券種類	額面金額	記號	番號	利子仕拂期	利金仕拂濟年月日
整理公債證券	百圓	〇	五〇七〇〇	明治四十年十二月	明治四十一年九月二十八日
同	同	〇	四四九九	同	同
軍事公債證券	千圓	〇	四四九九	自同三十八年十二月 至同四十二年六月	同四十一年九月四日
同	同	〇	四七五	同	同
同	同	〇	四七七	同	同
同	同	〇	四七七	同	同
大日本帝國政府 五分利公債證券	五拾圓	〇	六〇七四	自同四十年三月 至同四十二年九月	同四十一年九月三日
同	同	〇	九五〇	同	同
同	同	〇	五〇九〇	同四十年六月	同四十一年九月十日
同	同	〇	五〇九〇	同	同
同	同	〇	五〇四〇九	同	同四十一年九月十七日

○大藏省告示第五號

大阪稅務監督局及同局管内ノ島稅務署ヲ明治四十二年一月二十日大阪府大阪市北區中ノ島四丁目十五番地へ移ス

明治四十二年一月十四日

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十二年一月 告示 大藏省第四號 第五號

九

○大藏省告示第六號

明治三十七年三月法律第十四號煙草專賣法ニ依リ發行スル國庫債券客年十二月中日本銀行ニ交付シタルモノ左ノ如シ

明治四十二年一月十八日  
一國庫債券額面九千貳百五十拾圓

大藏大臣 侯爵桂太郎

但明治四十一年六月渡以降利札附屬

○大藏省告示第七號

明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例及明治三十八年二月法律第十七號ニ依リ割引ノ方法ヲ以テ本月二十三日大藏省證券ヲ發行セリ其ノ發行額、仕拂期日、額面金額種類、枚數記號及番號左ノ如シ

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十二年一月二十五日

一大藏省證券額面貳千萬圓 此證券九百二十枚

但明治十七年第二十四號布告大藏省證券條例ニ依ル分

仕拂期日 明治四十二年三月二十三日

内

拾萬圓券 拾號 自壹八壹番 至壹〇〇番 百二十枚

壹萬圓券 拾號 自壹九六壹番 至貳七六〇番 八百枚

一大藏省證券額面七百萬圓 此證券八百八十枚

但明治三十八年法律第十七號ニ依ル分

仕拂期日 明治四十二年三月二十三日

内

壹萬圓券 拾號 自貳九四壹番 至貳六六〇番 六百八十枚

千圓券 拾號 自壹五〇〇番 至壹五〇〇番 二百枚

○大藏省告示第八號

無記名軍事公債證書紛失ニ由リ代證券ヲ交付シタル原證券ノ額面金額種類枚數、發行年、記號及番號等左ノ如シ

明治四十二年一月二十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

額面金額	枚數	發行年	記號	番號	附屬利札	紛失届出年月日
五拾圓	一	明治三十八年	拾	四七〇	明治三十五年十二月五日	明治三十五年十二月五日

○陸軍省告示第一號

今般陸軍戸山學校軍樂生徒二十五名ヲ召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第八章ノ規定ニ依リ願書其ノ他ノ書類ヲ明治四十二年三月二十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

但シ軍樂生徒ヲ入校セシムルハ明治四十二年十二月一日ニシテ志願シ得ヘキ者ノ出生年月日ハ明治四十二年十二月一日ヨリ同二十五年十二月一日迄トス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○海軍省告示第一號

海軍兵學校生徒百五十名及海軍機關學校生徒七十名召募ス志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ海軍

兵學校生徒志願者ハ本年四月三十日迄ニ海軍機關學校生徒志願者ハ本年四月五日迄ニ當該校長ニ出願スヘシ

海軍兵學校生徒志願者身體検査所及學術試験所ヲ左記十三箇所ニ設ク  
東京市 長野市 名古屋市 弘前市 仙臺市  
京都市 金澤市 廣島市 高知市 鳥取市  
熊本市 鹿兒島市 大分町  
海軍機關學校生徒志願者身體検査所及學術試験所ヲ左記十箇所ニ設ク  
東京市 京都市 仙臺市 名古屋市 廣島市  
熊本市 金澤市 長野市 山口町 鹿兒島市

海軍兵學校生徒志願者ノ身體検査ハ本年七月中旬乃至下旬海軍機關學校生徒志願者ノ身體検査ハ本年五月上旬施行スル豫定ナリ其期日ハ追テ更ニ告示ス

市區町村長ハ本告示ノ要領ニ海軍兵學校生徒何名海軍機關學校生徒何名召募ノ旨何月何日官報海軍省告示第何號ヲ以テ告示アリタリトノ旨ヲ其ノ役場ニ揭示公表スルヲ要ス  
明治四十二年一月六日 海軍大臣 男爵齋藤實

生徒志願者心得  
第一條 海軍兵學校生徒及海軍機關學校生徒ハ本年九月中ニ於テ年齡滿十六年以上滿二十年以下  
明治四十二年九月二日ヨリ同二十六年十月一日ニ至ル間ニ於テ出生ニシテ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス

第二條 左ノ諸號ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セズ  
一 有妻ノ者  
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家貧分散者破産者若ハ其ノ相續人  
四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人  
五 品行又ハ家庭不良ナルカ爲將來將校若ハ機關官タルノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第三條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス  
第四條 生徒ハ入校ノ日ヨリ手當金ヲ給シ被服其ノ他修學ノ費用ニ充テシム  
第五條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス  
第六條 生徒ハ左ノ諸號ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一 將校若ハ機關官タルヘキノ器量ニ乏キ者  
二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者  
三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者  
四 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第七條 志願者ハ父兄親族其ノ他可成自己ニ關係深ク一家ヲ爲シ身元確實ナル者二名ヲ以テ保證人ト爲スヘシ  
第八條 志願者ハ志願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ市區町村長(志願者單身寄留ノモノナルトキハ原籍地ノ市區町村長、全戸寄留ノモノナルトキハ寄留地ノ市區町村長)ノ與書證印ヲ受ケ書留郵便若ハ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ直接海軍兵學校長(海軍機關學校生徒志願者ハ海軍機關學校長 本心得中括弧内海軍機關學校長若ハ)ニ差出スヘシ

一 履歷書(第一號書式)  
二 承認書(第二號書式)  
三 身元明細書(第四號書式)  
四 戶籍謄本



地理	地文	中學校教授要目ニ準據ス
歷史	史文	
物理	理學	備考 試験程度ハ中學校全科卒業ノ學力ヲ標準トス
化學	學理	

第十六條 志願者ハ身體検査ノ際新ニ(本年三)撮影(著帽ヲ禁ス)セル紙寫真(臺紙附ナルヲ要シ裏面ニ族籍氏名ヲ自書スヘシ)一葉ヲ携帶シ試験官ニ差出スヘシ

第十七條 志願者ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ又身體検査ニ際シテハ其ノ前入浴シテ身體ヲ清潔ニシ殊ニ耳垢ヲ除キ口中ヲ清潔ニシテ出頭スヘシ

第十八條 志願者何等ノ事故アリト雖之カ爲時日ヲ延シ検査ヲ行フコトナシ

第十九條 志願者検査地ヘノ往復並滞在費等ハ一切自辨タルヘシ

第二十條 志願者ノ身體検査日割表ハ検査開始ノ一日前ニ各受驗地ノ府縣廳(東京ハ築地水交社弘前ハ市役所)ニ揭示ス

志願者ハ各受驗地ノ前記揭示場ニ就キ豫メ自己ノ身體検査日割ヲ承合シ且受驗地ニ於ケル自己ノ宿所(受驗地ニ住所アル者ハ其ノ住所)ヲ検査開始ノ前日迄ニ到達スル様書面(用紙半紙)又ハ葉書ヲ以テ同地ニ出張セル試験官(東京ハ築地水交社内弘前ハ市役所内其ノ他ハ各府縣廳内ニ宛テ)ニ届出ツヘシ

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ身體検査所若ハ學術試験所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ豫メ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第二十一條 生徒ヲ命スル爲志願者ヲ海軍兵學校(海軍機關學校)ニ召集スルニハ校長ヨリ之ヲ第一保證人ニ達ス

第二十二條 前條ノ召集ニハ本人住所(受驗當時ノ住所)ヨリ海軍兵學校(海軍機關學校)マテノ里程ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十三條 海軍兵學校生徒海軍機關學校生徒ノ雙方ヲ志願シタル者ニシテ海軍機關學校ノ入學試験ニ合格シ採用ヲ豫定セラレタルトキハ海軍兵學校生徒志願ハ自然消滅トス

第一號書式(用紙美濃紙ニ折一通)

年月日

族籍  
月主(月主ニアラサルハ其ノ親類)  
氏 名印  
明治何年何月何日生

第一保證人  
本籍  
住所  
氏 名印

第二保證人  
本籍  
住所  
氏 名印

族籍  
本籍  
住所  
氏 名印

海軍兵學校長(海軍機關學校長) 爵氏名殿  
海軍兵學校生徒(海軍機關學校生徒) 志願ノ件

其(志願者ノ名)係海軍時校(海軍機關官)出身ヲ志願ス許可入校ノ上ハ海軍ノ紀律ニ服従スルコトヲ誓フ

志願者ノ身上ハ何等ニ限ラズ保證人ノヲ擔保ス

受驗地(東京)(長野)(名古屋)(弘前)(仙臺)(京都)(金澤)(廣島)(高知)(島取)(熊本)(鹿兒島)(大分)(山口)

右出頭ス

別紙履歴書、承認書、身元明細書及戸籍簿本ヲ添フ  
前書相違無シ

年月日

市區町村長 氏

名印 (終)

注意 志願者ノ氏名及保證人ノ現住所及兵名ニハ片假名ヲ付シ其ノ綴方ヲ明ニスヘシ

第二號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

履歷書

族籍

氏

名

- 一本籍(何府何縣何郡市町村何番地)主又ハ月主何某兄弟等)
- 一住所(本籍ニ同シ又ハ何府何縣何郡市町村何番地寄留)
- 一出生ノ地名(同上)
- 一生長ノ地名(同上)
- 一學歷(學校ノ名、入校退學卒業ノ年月日、在學中ノモノハ其ノ學年等)
- 一從軍シタル職業等自己ノ經歷
- 一從前海軍兵學校又ハ海軍機關學校生徒ヲ志願シタル者ハ其ノ校名、志願回数、年次、體格合格不合格等ノ經歷(海軍兵學校生徒志願者モ海軍機關學校生徒志願ノ經歷ヲ記入シ海軍機關學校生徒志願者モ海軍兵學校生徒志願ノ經歷ヲ記入スルヲ要ス又今同カ初度ノ志願ナルトキハ其ノ旨ヲ記入スヘシ)
- 一志願者心得第十二條ニ依リ所見表ヲ提出シ、モトヲ願フテントスル學校名及其ノ所在地又ハ家庭教師氏名及其ノ住所

年月日

第一保證人 氏 名印

氏 名印

名印

族籍

氏

名

第三號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)(親權ヲ行フ父若ハ母又ハ後見人之ラ作ルヘシ)  
承認書

右海軍兵學校生徒(海軍機關學校生徒)志願ニ付承認ス  
年月日

本籍 住所

右何某父(母、後見人又ハ月主)

氏

名印

族籍

氏

名

第四號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)  
身元明細書

志願者	處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類、平素ノ行狀
父	氏名、官職、職業ノ種類等經歷ノ概要 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記シ、戦死者ニ在リテハ何レノ役ニテ戦死セシカヲ明 記スヘシ
母	氏名、職業ノ種類等經歷ノ概要 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記スヘシ
兄弟姉妹	處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類
月主	父母ノ例ニ準ス
家庭ニ於ケル生計ノ現況	父母ノ例ニ準ス 所見ヲ記入スヘシ(資産及所得ノ概略ヲ記スルモ可ナリ)

右之通相違無シ

年月日

海軍兵學校長(海軍機關學校長)爵氏名殿

第一保證人 氏 名印  
第二保證人 氏 名印

市區町村長 氏 名印

前書相違無シ

年月日

第五號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

所見表

志願者氏名	入學年月及學級	卒業年月	學年	學科	成績	性質習癖	操行	備考
	目下ノ學級 中途退學年 月及學級	年	年	年	年	年	年	年
所見表	年	年	年	年	年	年	年	年
	年	年	年	年	年	年	年	年

所見表  
志願者ノ人格及學科進歩等ニ就キ校長若ハ教育擔任者ノ所見ヲ記入ス  
年月日  
學校所在地  
何立學校長 氏 名印

○司法省告示第一號  
宮城縣志田郡高倉村戸籍役場明治四十一年八月七日火災ニ罹リ屆書類焼失シタルニ付キ同年七月二十五日ヨリ八月七日マテノ間ニ於テ同村戸籍吏ニ届出ヲ爲シ又ハ屆書ヲ送付シ若クハ入籍通知ヲ爲シタル者ハ明治四十二年三月二十八日マテニ更ニ同村戸籍吏ニ届出ヲ爲シ又ハ書類ノ送付ヲ爲スヘシ  
明治四十二年一月九日  
司法大臣 子爵岡部長職

○文部省告示第一號  
私立十勝文庫ヲ北海道河西郡帶廣町ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ  
明治四十二年一月九日  
文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第二號  
私立紀念浪江文庫ヲ福島縣雙葉郡北標葉高等小學校内ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ  
明治四十二年一月九日  
文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第三號  
私立紀念雙岡文庫ヲ福島縣雙葉郡富岡高等小學校内ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ  
明治四十二年一月九日  
文部大臣 小松原英太郎



○文部省告示第四號

實業學校教員養成規程第四條ニ依リ明治四十二年度ニ於テ工業教員養成所商業教員養成所並農業教員養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數左ノ通定ム

明治四十二年一月十二日

文部大臣 小松原英太郎

一工業教員養成所ニ募集スヘキ生徒

凡三十名

一商業教員養成所ニ募集スヘキ生徒

凡三十名

一農業教員養成所ニ募集スヘキ生徒

凡三十名

○文部省告示第五號

私立中村高等女學校ヲ東京府東京市深川區東大工町四十四番地ニ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年一月十三日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第六號

神奈川縣私立橫濱高等女學校ヲ財團法人神奈川縣私立橫濱高等女學校ト改稱ノ件認可セリ

明治四十二年一月十三日

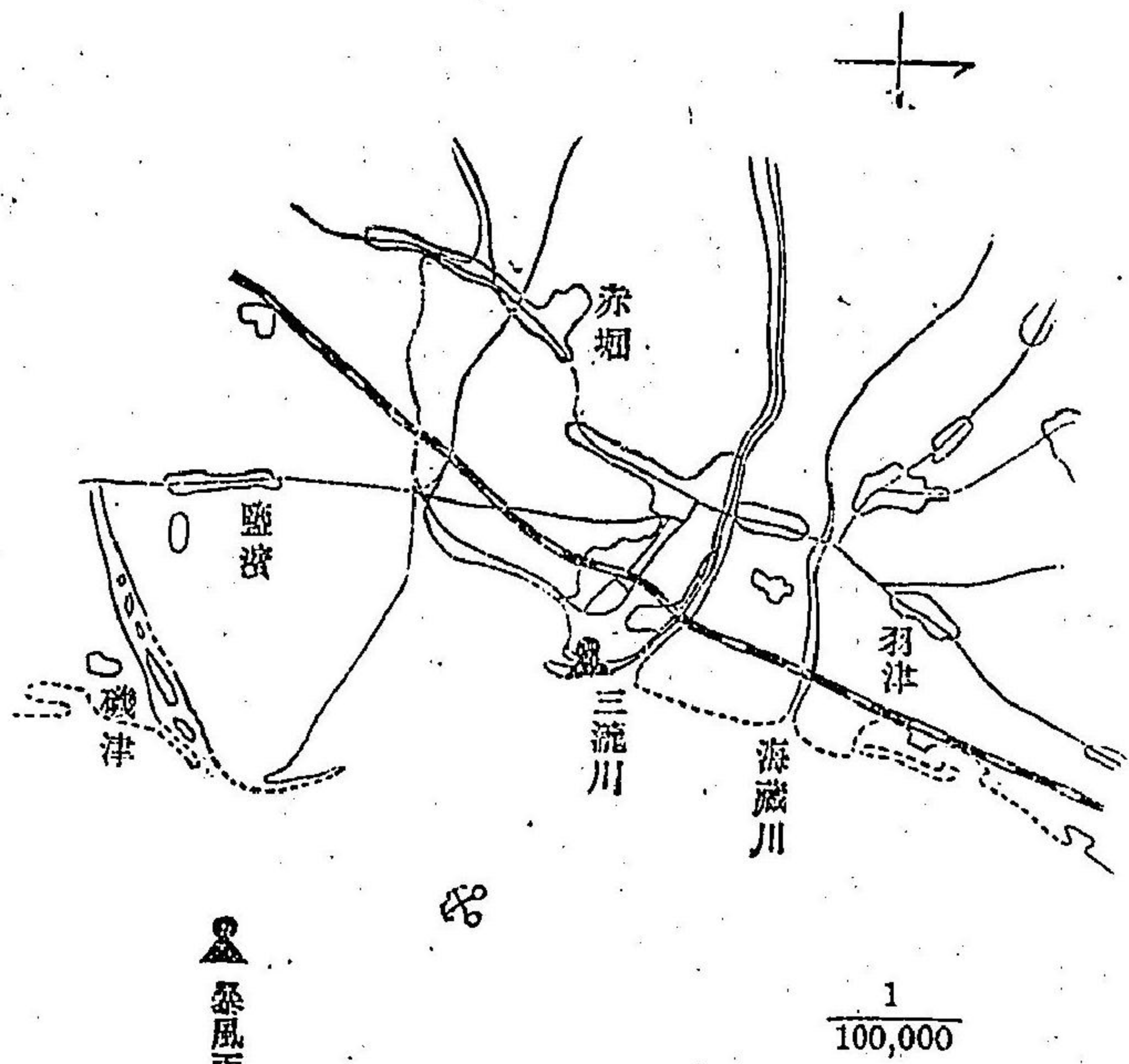
文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第七號

三重縣知事ハ同縣四日市市大字四日市字寅高入地先ニ縣立暴風雨標ヲ設置シ明治四十二年一月十五日ヨリ信號揚卸開始ノ旨届出タリ

明治四十二年一月十四日

文部大臣 小松原英太郎



○文部省告示第八號  
與謝郡立高等女學校ヲ京都府與謝郡立高等女學校ト改稱ノ件認可セリ  
明治四十二年一月十八日  
文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第九號

大阪府大阪市南區千代町ニ設置セル大阪府立島之内高等女學校ノ位置ヲ同市同區夕陽丘町及下寺町ニ變更シ校名ヲ大阪府立夕陽丘高等女學校ト改稱ノ件認可セリ

明治四十二年一月十八日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十號

東京市立深川圖書館ヲ東京府東京市深川區深川公園内ニ設置ノ件認可セリ

明治四十二年一月二十六日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十一號

鹿兒島縣私立教育會附屬圖書館ヲ私立鹿兒島圖書館ト改稱ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十二年一月二十八日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十二號

奈良女子高等師範學校ノ事務ハ當分ノ内文部省内ニ於テ之ヲ取扱フ

明治四十二年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十三號

私立津田文庫ヲ大阪府泉南郡岸和田堺町ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十二年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十四號

私立盛岡圖書館ヲ盛岡市内九ニ移轉ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十二年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十五號

私立由宇村青年與風會附屬圖書館ヲ山口縣玖珂郡由宇村ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十二年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省告示第一號

第四十三回獸醫免許試驗並第三十三回蹄鐵工免許試驗舉行地及期日左ノ通之ヲ定ム出願者ハ明治三十七年十二月ニ農商務省令第十四號獸醫蹄鐵工免許試驗規則ニ定ムル願書式ニ據リ願書ヲ調製シ手数料トシテ獸醫免許試驗ニ在リテハ金二圓蹄鐵工免許試驗ニ在リテハ金一圓ノ收入印紙ヲ願書ニ貼付シ試驗期日三十日前迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

明治四十二年一月十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第四十三回獸醫免許試驗舉行地及期日

熊本縣下	熊本	明治四十二年四月十三日
宮城縣下	仙臺	同年五月三日
東京府下	東京	同年六月一日
第三十三回蹄鐵工免許試驗舉行地及期日		
熊本縣下	熊本	明治四十二年四月二十一日
宮城縣下	仙臺	同年五月十一日
東京府下	東京	同年六月九日

○農商務省告示第二號

森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス

明治四十二年一月十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

縣 郡 村 大字 字 地番 面積  
 六分 東國東 富來 富來浦 松原 二六〇九〇  
 〇農商務省告示第三號  
 明治四十二年一月十一日左記事項ヲ免許漁業原簿ニ登録セリ  
 專用漁業權 讓渡年月日 讓渡人 受取人  
 明治四十二年一月十五日 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 熊本縣天草郡大浦村 小崎熊稚 關本縣天草郡須子村二千七百十七番地 香月小源太  
 明治四十二年十月十六日付 免許第一四二五號 明治四十二年十二月十日

〇農商務省告示第四號  
 森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス  
 長崎 南高來 多比良 堀 園 面積  
 同 西彼杵 三重 大 嶺 嶺 一四四九  
 同 同 同 大 嶺 二二〇  
 同 同 同 大 嶺 六二五  
 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 地番 面積  
 一四四九 一〇九二一  
 一五〇〇 一〇〇二

〇農商務省告示第五號  
 明治四十二年一月十五日左記專用漁業權者ノ代表者ヲ免許漁業原簿ニ登録セリ  
 免許番號 免許年月日 漁業權者ノ代表者ノ名稱住所  
 一一九五 明治四十二年一月十九日 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 兵庫縣石郡魚住村ノ内西岡村 中尾西岡漁業組合  
 明治四十二年九月十二日

〇農商務省告示第六號  
 森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス  
 縣 郡 町 字 地番 面積  
 巖手 下閉伊 鐵ヶ崎 白木山 三三三三  
 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 地番 面積  
 一六〇一七ノ九  
 〇七六〇八

〇農商務省告示第七號  
 森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス  
 縣 郡 村 大字 地番 面積  
 青森 南洋輕 田舎館 諏訪館 村 元 二〇九  
 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 村 元 地番 面積  
 二〇九 二〇六

〇農商務省告示第八號  
 森林法ニ依リ保安林解除ニ關シ滋賀縣知事ニ於テ告示シタル左記保安林ハ之ヲ解除セス  
 字 地番 面積  
 滋賀縣甲賀郡小原村大字杉山 同蒲生郡鏡山村大字山面 三三〇七  
 東 南 大 元 九  
 同岩根村大字菩提寺 同愛知郡東押立村大字平柳 八二〇 同伊香郡古保利村大字片山 九  
 似來野 一四七七一 同高島郡百廣村大字大沼 一〇三  
 一四〇〇 中ノ倉 七二 同高島郡百廣村大字大沼 一七九  
 九〇四

〇農商務省告示第九號  
 森林法ニ依リ左記ノ箇所ヲ保安林ニ編入ス  
 明治四十二年一月二十二日 農商務大臣 男爵大浦兼武













同	九〇八	二〇〇〇	同	九二五	二三五五	同	九二八	二四〇〇
同	九〇九	一三九〇〇	同	九一四	四三〇〇	同	九一九	二四〇〇
同	九一〇	二五〇〇	同	九一五	三〇〇〇	同	九二〇	五七〇〇
同	九一一	三〇〇〇	同	九一六	九〇九	同	九二二	一三〇〇〇
同	九一二	一六〇〇	同	九一七	六三〇〇	同	九二三	四八〇〇

○農商務省告示第十二號

明治四十二年一月十八日左記入漁ニ關スル事項ヲ免許漁業原簿ニ登録セリ

漁業ノ種類 及名稱	漁獲物ノ種類	漁業時期	根柢受納漁業 登錄番號	根柢受納漁業 登錄番號	農商務大臣 男爵大浦兼武	自七月一日起 至七月三十一日
根柢受納漁業 鯉、鱈	龍蝦、かき、く、 しらす、ふたひ	自七月一日起 至七月三十一日	登錄番號 第二九一號	登錄番號 第二九二號	農商務大臣 男爵大浦兼武	自七月一日起 至七月三十一日
龍蝦刺網漁業 しらす、ふたひ	龍蝦、かき、く、 しらす、ふたひ	自七月一日起 至七月三十一日	入漁區域 靜岡縣賀茂郡安良里村地先 許第六七八號漁場内	入漁區域 靜岡縣賀茂郡岩科村地先 免許第六八〇號漁場	農商務大臣 男爵大浦兼武	自七月一日起 至七月三十一日
登錄番號 第二九〇號			入漁權者 靜岡縣賀茂郡宇久須村字久須村漁業組合	入漁權者 靜岡縣賀茂郡岩科村道部、道部漁業組合		
入漁區域 靜岡縣田方郡西豆村小下田字 廻り崎ノ内道標橋ヨリ八木澤境ケ界 ニ至ル小下田地先免許第一二七五號漁場			登錄番號 第二九二號	登錄番號 第二九四號		
入漁權者 靜岡縣田方郡土肥村土肥、土肥漁業組合			入漁區域 靜岡縣賀茂郡岩科村地地先 免許第六八六號漁場	入漁區域 靜岡縣賀茂郡岩科村雲見地先 免許第七八八號漁場		
			入漁期間 第六八六號漁業權ノ免許期間	入漁權者 靜岡縣賀茂郡岩科村道部、道部漁業組合		

○農商務省告示第十三號

森林法ニ依リ左記區域ノ開墾制限ヲ解除ス

明治四十二年一月二十六日  
農商務大臣 男爵大浦兼武

縣 福井 郡 大野 村 蓮見

○農商務省告示第十四號

森林法ニ依リ左記區域ノ開墾制限ヲ解除ス

明治四十二年一月二十六日  
農商務大臣 男爵大浦兼武

縣 福井 郡 大野 町 北郷

○農商務省告示第十五號

農商務省告示第十五號

埃地利國及洪牙利國政府ハ千九百九年一月一日ヨリ左記ノ條約ニ加盟スヘキ旨ヲ申込ミ且該加盟國ハ「ボスニヤ」國及「ヘルゼゴヴ」國ニモ當然適用セラルヘキコトヲ宣言シタル旨瑞西聯邦政府ヨリ通知アリタリ

明治四十二年一月二十七日  
農商務大臣 男爵大浦兼武

一千八百八十三年三月二十日佛蘭西國巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約及附屬最終議定書

一千八百九十一年四月十四日西班牙國馬德里ニ於テ調印セラレタル製造標若ハ商標萬國登録ニ關スル取極

一千八百九十一年四月十五日西班牙國馬德里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護同盟事務局維持ニ關スル議定書

一千八百八十三年三月二十日ノ條約修正ニ關シ千九百九年十二月十四日白耳義國「ブリッセル」ニ於テ調印セラレタル追加條約

一千八百九十一年四月十四日ノ馬德里取極修正ニ關シ千九百九年十二月十四日白耳義國「ブリッセル」ニ於テ調印セラレタル追加條約

○農商務省告示第十六號

左記箇所ノ開墾ヲ爲サムトスル者ハ福井縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

明治四十二年一月二十八日  
農商務大臣 男爵大浦兼武



































○遞信省告示第二號

明治三十九年九月遞信省告示第四百十六號外國電信取扱制限表中ハイチノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治四十二年一月六日

遞信大臣 男爵後藤新平

伊太利(露ノ爲シテ)島及レギオカラブリアニ宛ルル電報ハ其ノ傳送上不適 誤謬又ハ遲延ノ責ニ任セス

○遞信省告示第三號

明治三十三年八月遞信省告示第三百十四號電話呼出地域中「三河國碧海郡安城町大字安城」ノ項ノ次ニ左ノ通追加シ本月六日ヨリ施行ス

明治四十二年一月七日

遞信大臣 男爵後藤新平

三河國碧海郡刈谷町大字刈谷同元刈谷

○遞信省告示第四號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 萩原郵便局

位 置 愛知縣中島郡萩原町

○遞信省告示第五號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 佐世保城山郵便局

位 置 佐世保市下城山町

○遞信省告示第六號

本月十一日ヨリ左記郵便局電話交換業務取扱時間ノ制限ヲ廢ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第七號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第八號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 吉田郵便局

位 置 山口縣厚狹郡吉田村

名 稱 重井郵便局

位 置 廣島縣御調郡重井村

○遞信省告示第九號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月九日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 神邊郵便局

位 置 廣島縣深安郡川南村

○遞信省告示第十號

今般新潟海務署ヲ新潟市緑町三千四百三十七番地ニ移轉セリ

明治四十二年一月十一日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第十一號

千葉縣安房國野島嶺燈臺ハ本年三月中其燈質及燭光數ヲ左記ノ通變更ス

明治四十二年一月 告示 遞信省第六號 第七號 第八號 第九號 第十號 第十一號

但變更ノ上ハ更ニ告示スヘシ

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

一燈 質 一燭光數 二萬六千

○逓信省告示第十二號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 東鹽田郵便局

位 置 長野縣小縣郡東鹽田村

○逓信省告示第十三號

本日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス但シ六渡寺郵便局ニ於テハ電報配達事務ヲ取扱ハス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 宇波郵便局

位 置 富山縣水引郡宇波村

○逓信省告示第十四號

本日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 青木郵便局

位 置 長野縣小縣郡青木村

○逓信省告示第十五號

本日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 田野郵便局

位 置 宮崎縣宮崎郡田野村

○逓信省告示第十六號

本日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 三次郵便局

位 置 廣島縣高田郡吉田町

可部郵便局

位 置 廣島縣佐伯郡廿日市町

○逓信省告示第十七號

明治三十三年八月逓信省告示第二百十四號電話呼出地域中左ノ通追加ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

安藝國安佐郡瀨園村ノ項ノ次ニ

安藝國安佐郡可部町中原村大字中野ノ字上ケ原同柳河原ヲ除ク、同城字友貞、三入村大字下町屋字横川

安藝國高田郡吉田町(字大畑同四軒屋同大渡同柿原同柳原同左園同倉下同内堀同上太郎丸ノ内飛毬ヲ除ク)

安藝國佐伯郡廿日市町平其村大字下平其字後田同可愛町觀音村大字佐方字田尾

備後國沼隈郡松永町ノ項ノ次ニ

備後國三郡三次町(字中所同宮ノ峽同檜原同寺戸願方地ヲ除ク)、原村(字太歳同四日市同上原同中原同岡竹同下原同植松同天引同大村同坂根ヲ除ク)

○逓信省告示第十八號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十二年一月十一日

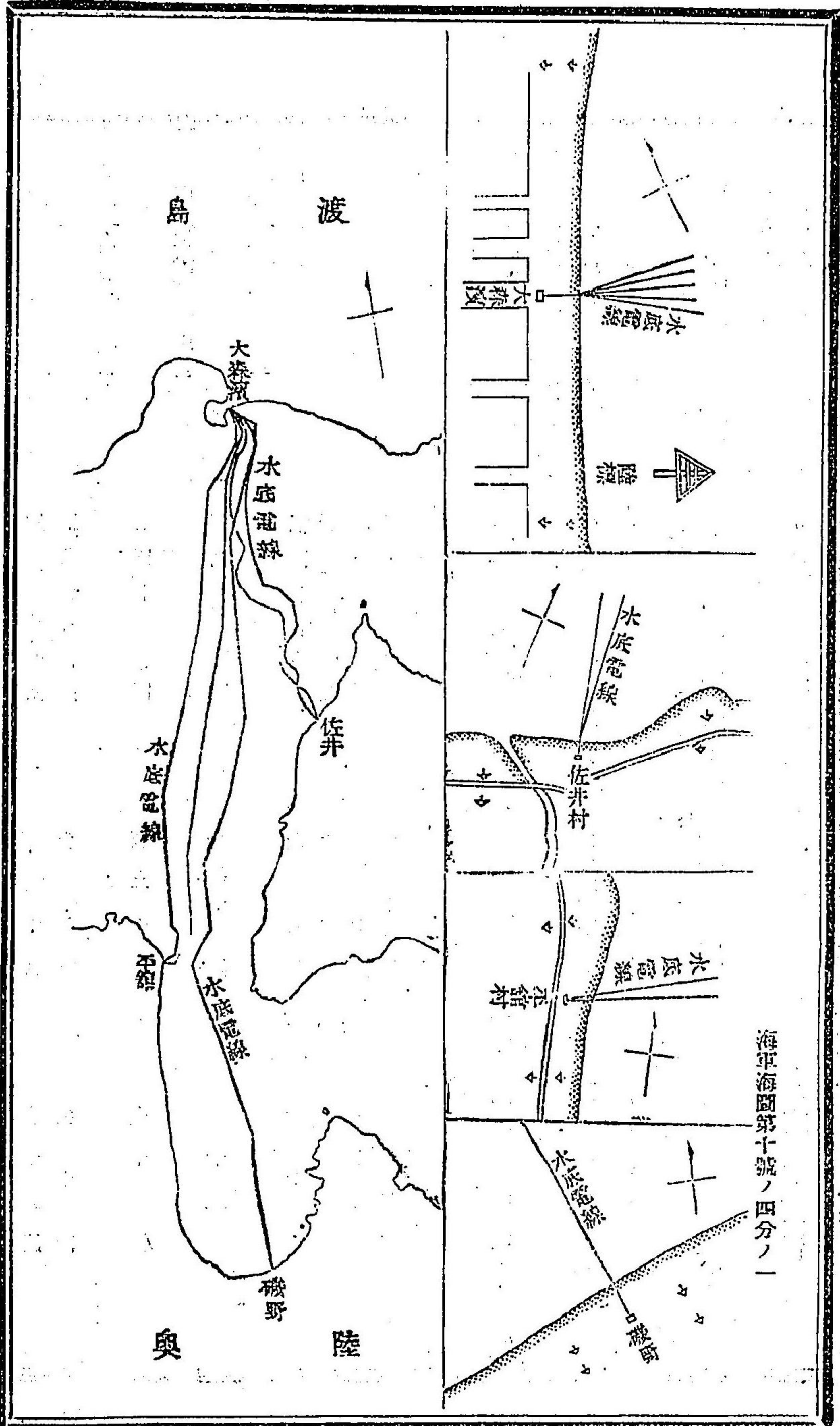
逓信大臣 男爵後藤新平

	加入區域外 電話料	一問ノ電 話呼出料
「長大阪松永間」ノ次ニ	長大阪可部間 金九十五錢 長大阪三次間 金八十五錢	金二十錢 金二十錢
「長神戸松永間」ノ次ニ	長神戸廿日市間 金八十五錢	金二十錢
「廣島平生間」ノ次ニ	廣島可部間 金十錢 廣島廿日市間 金十錢 廣島三次間 金二十五錢 廣島吉田間 金二十錢	金十錢 金十錢 金十五錢 金十五錢
「吳祇園間」ノ次ニ	吳可部間 金二十錢 吳廿日市間 金二十錢 吳三次間 金二十五錢 吳吉田間 金二十五錢	金十五錢 金十五錢 金十五錢 金十五錢
「尾道松永間」ノ次ニ	尾道可部間 金二十五錢 尾道廿日市間 金二十五錢 尾道三次間 金二十五錢	金十五錢 金十五錢 金十五錢
「長嚴島下關間」ノ次ニ		

「岩國平生間」ノ次ニ	嚴島可部間 金二十錢 嚴島廿日市間 金十錢	金十五錢 金十錢
「福山松永間」ノ次ニ	福山三次間 金二十五錢	金十五錢
「柳井平生間」ノ次ニ	祇園廿日市間 金十五錢 祇園可部間 金十錢 可部吉田間 金二十錢 可部三次間 金二十五錢 三次吉田間 金二十五錢	金十錢 金十錢 金十五錢 金十五錢 金十錢

○逓信省告示第十九號  
津輕海峽大森濱ト磯野間ニ左圖ノ通り水底電線一條ヲ新設シ該線路及在來大森濱ニ陸揚シタル電線ノ線路區域左ノ通相定ム  
但シ明治三十六年十一月十二日逓信省告示第五百九十六號ノ内津輕海峽ニ關スル項ハ之レヲ廢止ス  
明治四十二年一月十一日 逓信大臣 男爵後藤新平

一陸奥國東津輕郡平館村大字平館水底電線陸揚地及同國下北郡佐井村大字佐井水底電線陸揚地及同國東津輕郡造道村字磯野ト渡島國函館區東川町字大森濱水底電線陸揚地間線條ノ左右各二百間以內  
但シ磯野ヘ陸揚シタルモノニ限リ磯野陸揚地ヨリ沖五百間迄ハ線條ノ左右各五十間以內



○逓信省告示第二十號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加シ本月十日ヨリ施行ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

加入區域外  
通話區域

一 通話料

一回ノ電  
話呼出料

「長東京青木間」ノ次ニ

長東京青木間

金五十銀

金二十銀

○逓信省告示第二十一號

本日ヨリ左記郵便局ヲ移轉改稱ス

明治四十二年一月十一日

逓信大臣 男爵後藤新平

現名稱

現在位置

改稱

移轉位置

津島町郵便局

津市萬町八十番屋敷

津島世橋郵便局

津市榮町七十九番屋敷ノ一

○逓信省告示第二十二號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

明治四十二年一月十二日

逓信大臣 男爵後藤新平

英貨	佛貨
一 パウンド	九圓八二〇七七
一 シルリング	四九一〇四
一 ペンニー	四〇九二
一 フランク	三九〇九〇
一 シルリング L.O. パン	一圓二付二ニ「四三八
一 フランク	一圓二付二「五十五」サ

米	絹	絹	絹	絹	絹	絹	絹	絹	絹
一ダラ	一マルク	一フロリン	一クロネ	一クロネ	一クロネ	一クロネ	一クロネ	一クロネ	一クロネ
二〇一九八	四八〇七〇	八・五六〇	四・三九〇	四・三九〇	四・三九〇	四・三九〇	四・三九〇	四・三九〇	四・三九〇
一圓二付四十九「セント」五二五	一圓二付「マルク」〇八「フェン」	一圓二付「フロリン」二十二「セ	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一	一圓二付「クロネ」四十一

(備考) 羅馬尼貨幣「ルー」及「パニ」ノ換算割合ハ備貨換算割合ニ同シ。\*香港爲替中對公島及露波ニ振宛テ  
ルモノニハ邊銀換算割合ヲ適用シ其他ノ地方ニ振宛ツルモノニハ香港洋銀換算割合ヲ適用ス

○逓信省告示第二十三號

本月十六日ヨリ左記電信取扱所ニ電報配達事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十三日

野内電信取扱所

青森縣東津輕郡野内村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十四號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基テ請願ニ依リ本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十二日

須ヶ野郵便局

山口縣都波郡須ヶ野村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十五號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十二日

床波郵便局

山口縣吉敷郡西岐波村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十六號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十三日

比田郵便局

長崎縣上縣郡豐隆村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十七號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十三日

新町郵便局

岐阜縣和賀郡澤内村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十八號

本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十三日

川口郵便局

大原郡大沼郡川口村

逓信大臣 男爵後藤新平

宮城縣大原郡大原村

明治四十二年一月 告示 逓信省第二十三號 第二十五號 第二十六號 第二十七號 第二十八號

○逓信省告示第二十九號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十四日

名 稱 國神郵便局  
位 置 埼玉縣秩父郡國神村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第三十號  
明治四十年九月逓信省告示第五百六十九號本邦ト國際返信切手券ヲ交換スル國名表中「羅馬尼」ノ次ニ「サルツァドル」ヲ加フ

明治四十二年一月十四日

名 稱 國神郵便局  
位 置 埼玉縣秩父郡國神村

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第三十一號  
船舶検査法施行細則第十八條ノ規定ニ依リ船舶検査執行地ヲ左ノ通追加ス

明治四十二年一月十四日

神戸海務署 攝津國新在家  
下關海務署 長門國彦島  
函館海務局 膽振國室蘭

攝津國岩屋  
長門國長府

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第三十二號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年一月十五日

名 稱 澁川郵便局  
位 置 富山縣中新川郡澁川町

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第三十三號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十五日

名 稱 澁川郵便局  
位 置 富山縣中新川郡澁川町

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第二十四號  
明治三十三年八月逓信省告示第三百二十四號電話呼出地域中「備中國都窪郡茶屋町」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月十五日

名 稱 井原郵便局  
位 置 岡山縣後月郡井原町

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第三十五號  
明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月十五日

加入區域外  
電話料

逓信大臣 男爵後藤新平  
一回ノ電話呼出料

「京都豊岡間」ノ次ニ	長京 都 井 原 間	金 七 十 五 錢	金 二 十 錢
「大阪山崎間」ノ次ニ	大 阪 井 原 間	金 六 十 錢	金 二 十 錢
「岡山龍野間」ノ次ニ	岡 山 井 原 間	金 二 十 錢	金 十 五 錢
「玉島天城間」ノ次ニ	玉 島 井 原 間	金 十 五 錢	金 十 錢
「西大寺妹尾間」ノ次ニ	西 大 寺 井 原 間	金 二 十 五 錢	金 十 五 錢

○逓信省告示第三十六號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十五日

○逓信省告示第三十七號  
明治三十三年ハ逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中左ノ通過加ス

明治四十二年一月十五日

「出雲國簸川郡直江村」ノ項ノ次ニ  
出雲國八束郡揖屋村字東揖屋同西揖屋同五反田  
出雲國能登郡荒島村大字荒島字荒島

○逓信省告示第三十八號  
明治三十九年ハ逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通過加ス

明治四十二年一月十五日

「安來直江間」ノ次ニ  
加入區域外  
逓信大臣 男爵後藤新平

電話料  
一回ノ電話呼出料

安來揖屋間	金十錢	金十錢
安來荒島間	金十錢	金十錢
松江揖屋間	金十錢	金十錢
松江荒島間	金十錢	金十錢

「美保關直江間」ノ次ニ

「宍道直江間」ノ次ニ

「莊原直江間」ノ次ニ

「三次吉田間」ノ次ニ

○逓信省告示第三十九號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十五日

○逓信省告示第四十號  
明治三十三年ハ逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中「遠江國小笠郡西方村大字堀ノ内」ノ項ノ次ニ左ノ通過加ス

明治四十二年一月十五日

○逓信省告示第四十一號  
遠江國靜名郡舞坂町大字舞坂宿 篠原村大字馬郡字天王山今切

明治三十九年ハ逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通過加ス

明治四十二年一月十五日

逓信大臣 男爵後藤新平

美保關揖屋間	金二十錢	金十五錢
美保關荒島間	金二十錢	金十五錢
宍道揖屋間	金二十五錢	金十五錢
宍道荒島間	金二十錢	金十五錢
莊原荒島間	金二十錢	金十五錢
揖屋荒島間	金五錢	金五錢

逓信大臣 男爵後藤新平

逓信大臣 男爵後藤新平

逓信大臣 男爵後藤新平

加入區域外 通話區域	電話料	一回ノ電 話呼出料
長東京舞坂間	金七十錢	金二十錢
静岡舞坂間	金二十五錢	金十五錢
濱松舞坂間	金十錢	金十錢
掛川舞坂間	金二十錢	金十五錢
見付舞坂間	金十五錢	金十錢
中泉舞坂間	金十五錢	金十錢
舞坂名古屋間	金二十五錢	金十五錢
舞坂豊橋間	金十五錢	金十錢

○逓信省告示第四十二號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス  
明治四十二年一月十五日  
逓信大臣 男爵後藤新平

名 位  
小須戸郵便局 新潟縣中蒲原郡小須戸町  
卷郵便局 新潟縣西蒲原郡卷町  
長岡神田郵便局 長岡市神田町

加入區域外 通話區域	電話料	一回ノ電 話呼出料
新潟高田間ノ次ニ	金十五錢	金十錢
新潟小須戸間	金十五錢	金十錢
新津小須戸間	金十五錢	金十錢
三條高田間ノ次ニ	金十五錢	金十錢
三條小須戸間	金十五錢	金十錢
長岡高田間ノ次ニ	金二十錢	金十五錢
長岡小須戸間	金二十錢	金十五錢

○逓信省告示第四十三號  
明治三十三年ハ逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中左ノ通追加ス  
明治四十二年一月十五日  
逓信大臣 男爵後藤新平

○越後國中蒲原郡村松町ノ項ノ次ニ  
越後國中蒲原郡小須戸町大字小須戸  
越後國中蒲原郡卷町大字卷村同郡山新田漆山村大字赤鑑

○逓信省告示第四十四號  
明治二十九年ハ逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス  
明治四十二年一月十五日  
逓信大臣 男爵後藤新平



「新發田村松間」ノ次ニ

「河原田」見聞ノ次ニ

新發田小須戸間	金二十錢	金十五錢
村松小須戸間	金二十錢	金十五錢
見附卷間	金二十錢	金十五錢

○逓信省告示第四十五號  
本月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十五日

○逓信省告示第四十六號

明治四十一年十二月十二日逓信省告示第千三百六十一號帝國ト外國郵便爲替ヲ交換スル國等ヲ示ス表第一「通常爲替」一直接交換國「甲」羅馬締結郵便爲替業務約定ニ依ルモノノ部附註ノ項蘭領東印度ニ於ケル通常爲替取扱局名中「クワン」ヲ削ル

明治四十二年一月十六日

○逓信省告示第四十七號  
本月二十日ヨリ左記加入區域外通話ヲ長距離トス

明治四十二年一月十八日

○逓信省告示第四十八號  
一長野新瀨間

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基ク請願ニ依リ本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十八日

○逓信省告示第四十九號  
本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス  
明治四十二年一月十八日  
○逓信省告示第五十號  
本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス  
明治四十二年一月十八日  
○逓信省告示第五十一號  
本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス  
明治四十二年一月十八日  
○逓信省告示第五十二號  
來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス  
明治四十二年一月十八日  
○逓信省告示第五十三號  
明治三十七年六月逓信省告示第百三十七號外國電報料金表第四表South America（南亞米利加地方）ノ部 Peru（ペルー）ノ項中「Liquios（イキウス）」以下「Reguena（レケナ）」ヲテヲ左ノ通改正ス  
明治四十二年一月十八日

名 稱 中村郵便局

位 置 島根縣周布郡中村

○逓信省告示第四十九號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

名 稱 大原郵便局

位 置 廣島縣佐伯郡大柿村

○逓信省告示第五十號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

名 稱 佐野郵便局

位 置 兵庫縣津名郡佐野村

○逓信省告示第五十一號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

名 稱 神戸熊内郵便局

位 置 兵庫縣原野郵便局

○逓信省告示第五十二號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

名 稱 朝日野郵便局

位 置 滋賀縣蒲生郡朝日野村

○逓信省告示第五十三號

明治三十七年六月逓信省告示第百三十七號外國電報料金表第四表South America（南亞米利加地方）ノ部 Peru（ペルー）ノ項中「Liquios（イキウス）」以下「Reguena（レケナ）」ヲテヲ左ノ通改正ス

明治四十二年一月十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第五十四號  
 明治四十年九月逓信省告示第五百七十五號本邦ト別配達郵便物ヲ交換スル國中「サルヴァドル」ノ項ヲ削ル

明治四十二年一月十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第五十五號

明治四十年九月逓信省告示第五百六十四號外國宛通常郵便物(價格表記書狀)ノ取戻又ハ名宛變更ヲ請求シ得ル國及請求書ヲ發送スヘキ官署中「サルヴァドル」ノ項ヲ左ノ通改ム

明治四十二年一月十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

「サンサルバドル」 Direction générale des postes à San Salvador.

○逓信省告示第五十六號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

明治四十二年一月十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

佛貨	一フランク	三九〇九〇	一圓二付	「フランク」五十五「サ
	一フランク	三九〇九〇	一圓二付	「フランク」八二〇
英貨	一パウンド	九八二〇七セ	一圓二付	「シルリング」〇「ペン
	一シルリング	四九一〇四	一圓二付	「ニ」四三八
佛貨	一フランク	三九〇九〇	一圓二付	「フランク」五十五「サ
	一フランク	三九〇九〇	一圓二付	「フランク」八二〇

米貨	一ダラー	二〇〇〇〇〇	一圓二付	四十九「セント」五〇〇
	一セント	二〇〇〇〇	一圓二付	「マルク」〇八「フェン
獨貨	一マルク	四八〇八〇	一圓二付	「マルク」〇三〇
	一フロリン	八二五八〇	一圓二付	「フロリン」二十二「セ
地地利貨幣	一クロネ	四三三〇〇	一圓二付	「クロネ」四十一
	一クロネ	四三三〇〇	一圓二付	「ハル」六〇四
瑞那丁抹威貨幣	一クロネ	五三三〇〇	一圓二付	「クロネ」八十四「オ
	一クロネ	五三三〇〇	一圓二付	「イル」六一
香港洋銀	一ダラー	八七五八三	一圓二付	「ダラー」十三「セント」
	一セント	八七五八	一圓二付	八五二
本銀	一ダラー	一八七三三三	一圓二付	「ダラー」十四「セント」
	一セント	一八七三	一圓二付	五〇四

(備考) 羅馬尼貨幣「ルー」及「パニ」ノ換算割合ハ佛貨換算割合ニ同シ\*香港爲替中劉公島及嶺波ニ振宛  
 フルモノニハ銀銀換算割合ヲ適用シ其他ノ地方ニ振宛フルモノニハ香港洋銀換算割合ヲ適用ス

○逓信省告示第五十七號

本月二十日ヨリ左記郵便局ヲ移轉改稱ス

明治四十二年一月十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

現名

現在位

改

稱

移轉位

四谷信濃町郵便局

東京市四谷區信濃町

四谷信濃町郵便局

東京市四谷區平長町(四谷郵便局)

明治四十二年一月 告示 逓信省第五十七號

○遞信省告示第五十八號

明治三十九年<sup>六</sup>月遞信省告示第二六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通退加シ本月二十一日ヨリ施行ス

明治四十二年一月十九日

遞信大臣 男爵後藤新平  
一通話ノ電話料 一通呼出料

「大牟田隈府間」ノ次ニ

大牟田來民間

金二十錢

金十五錢

○遞信省告示第五十九號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月十九日

名 稱 名古屋江川郵便局

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ヲ移轉ス

明治四十二年一月十九日

名 稱

現 在 位 置  
神戶多開郵便局 神戶市兵庫多開通三丁目

移 轉 位 置  
神戶市兵庫多開通三丁目

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十一號

和蘭殖民地「シヨリナム」(蘭領ギアヌ)ハ羅馬締結價格表記書狀及箱物交換約定ニ加入セリ

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十二號

明治四十年<sup>九</sup>月遞信省告示第五百九十三號外國宛價格表記書狀及同箱物郵便料金表中「蘭領東印度」

ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治四十二年一月二十日

シヨリナム(蘭領ギアヌ)	佛 佛船、佛船	同前	同前	三	許	Administrateurs	—	—	—
日 船	佛船、佛船	同前	同前	三	許	des Finances & Paramaribo	—	—	—

○遞信省告示第六十三號

明治三十九年<sup>九</sup>月遞信省告示第四百六十六號外國電信取扱制限表中「伊太利」ノ項左ノ通改正ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

伊 太 利 「メシース」及「レゴ」オ「カプリア」ニ宛ル電報ハ其ノ傳送上誤謬延延ハ不違ノ責ニ任セス

○遞信省告示第六十四號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

名 稱

位 置  
北長森郵便局 岐阜縣稻葉郡北長森村

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十五號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

名 稱

位 置  
阪井郵便局 和歌山縣海草郡野村

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十六號

明治三十六年<sup>三</sup>勅令第四十一號ニ基ク請願ニ依リ本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 位 置  
吉利郵便局 鹿兒島縣日置郡吉利村  
橋津郵便局 大分縣宇佐郡北馬城村

名 稱 位 置  
香下郵便局 大分縣宇佐郡兩川村

○遞信省告示第六十七號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第六十八號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 位 置  
八戸郵便局 青森縣三戸郡八戸町  
湊郵便局 青森縣三戸郡小中野村

名 稱 位 置  
鮫郵便局 青森縣三戸郡鮫村

○遞信省告示第六十九號

明治三十三年ハ遞信省告示第三百十四號電話呼出地域中「陸奥國中津輕郡駒越村大字駒越」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

陸奥國中津輕郡八戸町(大字田向中居林、同石手洗、同糖塚字板橋ヲ除ク)、館村大字東市、同澤里

陸奥國中津輕郡小中野村(大字波通字湊、同白銀)

陸奥國中津輕郡大字濱通字鮫、同持越澤、同三子石

○遞信省告示第七十號

明治三十九年ハ遞信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

「大曲本莊間」ノ次ニ

加入區域外 通話區域	一 通話料	一 同ノ電 話呼出料
八戸 湊 間	金 五 錢	金 五 錢
八戸 鮫 間	金 十 錢	金 十 錢
湊 鮫 間	金 五 錢	金 五 錢

○遞信省告示第七十一號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第七十二號

明治三十三年ハ遞信省告示第三百十四號電話呼出地域中「攝津國有馬郡三田町」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

攝津國三島郡吹田町(字念田、同上新田、同下新田、同天道、同御旅島、同旗澤ヲ除ク)千里村大字片山字出口

○遞信省告示第七十三號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス但シ電報配達事務ヲ取扱ハス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

名 稱 福岡大工町郵便局 位 置 福岡市大工町

○遞信省告示第七十四號

本月二十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

名稱 横田郵便局

位置 千葉縣君津郡中川村

○逓信省告示第七十五號

明治四十年ハ逓信省告示第四百八十六號日本帝國逓信省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則ヲ修正スル追加條款左ノ如シ

明治四十二年一月二十日

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十年七月十九日東京ニ於テ及千九百七年一月三十一日倫敦ニ於テ署名セラレタル日本帝國逓信省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則ヲ修正スル追加條款

第一條

日本帝國逓信省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政廳ハ明治四十年七月十九日及千九百七年一月三十一日ノ小包郵便約定ノ施行細則第一條第一項ヲ左ノ通改正スルコトヲ約定ス

兩國間ニ於ケル閉塞郵便ニ依ル小包ノ交換ハ加那太ヲ經由シ又ハ蘇士ヲ經由シテ之ヲ施行スヘ

第二條

施行細則ヲ修正スル本追加條款ハ約定ヲ修正スル追加條款實施ノ日ヨリ之ヲ施行スヘシ  
千九百八年九月三日倫敦ニ於テ及明治四十一年十二月二十三日東京ニ於テ二通ヲ作成シ之ニ署名ス

逓信大臣 男爵 後藤 新平

郵政長官 シドニー・バックストン

○逓信省告示第七十六號

本年一條約第一號日本帝國逓信省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政廳間小包郵便約定ヲ修正スル追加條款ハ來二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年一月二十日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第七十七號

明治四十一年ハ逓信省告示第二百二十九號外國小包郵便料金表(第一郵便料金及隨意規定事項ノ部)中左ノ通改正シ來二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年一月二十日

逓信大臣 男爵後藤新平

一大不列顛及愛爾蘭ノ部直接交換ニ關スル項中價格表記金額制限欄ノ金額ヲ「三、〇〇〇」ト改ム

一左記各國ノ部英國經由ニ關スル各項中價格表記金額制限欄ノ金額ヲ夫夫下記ノ通改ム

獨逸 澳地利 洪魯利、白耳義「ボスニア、ヘルゼゴヴィナ、玖瑪共和國、丁抹、埃及、亞米利加合衆國、佛蘭西、

「マルタ」東亞非利加「モリス」島「ソマリランド」「ザンビエ」保護國「ニユーファンランド」

歴山堡大公國 那威羅馬尼 歐羅巴 露西亞 瑞典 瑞西

智利「ジンラルタル」「シーブル」「コトパクス」「アツセツシヨウ」「セントパウル」

「カンピー」「ニジモリー」「ライオス」「シネトラレオン」

一英國殖民地及屬地(四)亞米利加ノ部「バハマ」諸島「バーミユダ」諸島「ファルクランド」諸島、英領ギ

アナ、及英領西印度ノ各項ヲ夫夫左ノ通改ム



原、大字東佐波金字線物師同慶力同高砂同松川同鶴社同院內同上山田同御籠同野崎同下島居同酒垂公園、大字西佐波金字坂本、同法成庵、同上佐波津、同上橋同新道同中河原、同船本、同岡入、同追戸、同下島居、同遊戸、同上井、同番匠、同瀬三河内、同八王寺、同正町、同横町、大字新田字切實同慶手新町

○遞信省告示第八十號

明治三十九年六月、遞信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十一日

遞信大臣 男爵後藤新平

加入區域外 通話區域	一 電話料	一 一回ノ電 話呼出料
長大阪三次間ノ次ニ	長大阪 德山間 金一圓十錢	金二十五錢
長神戶廿日市間ノ次ニ	長大阪 防府間 金一圓二十錢	金二十五錢
廣島吉田間ノ次ニ	長神戶 德山間 金一圓十錢	金二十五錢
吳吉田間ノ次ニ	長神戶 防府間 金一圓十錢	金二十五錢
長下關平生間ノ次ニ	廣島 德山間 金二十五錢	金二十五錢
柳井平生間ノ次ニ	廣島 防府間 金二十五錢	金二十五錢
	吳 德山間 金二十五錢	金二十五錢
	吳 防府間 金二十五錢	金二十五錢
	下關 德山間 金二十五錢	金二十五錢
	下關 防府間 金二十五錢	金二十五錢
	柳井 德山間 金二十錢	金十五錢

「播屋荒島間」ノ次ニ

○遞信省告示第八十一號

伊良湖水道神島ノ東北東方コヅカミ礁浮標流失ノ處(明治四十一年十一月十二日 遞信省告示第千四百十號 參照)左記ノ通標置セリ

明治四十二年一月二十一日

遞信大臣 男爵後藤新平

一位置	一水深	一方位	德山 防府間 防府 門司間	金十五錢 金二十五錢	金十五錢 金十五錢
コヅカミ礁浮標	大低潮時約十尋	該浮標ヨリ測定セル磁針方位ハ左ノ如シ			
伊良湖崎西端ハ北三十一度東神島南端接近ノ一島ハ南四十八度十五分西					
神島ノ北端ハ南八十四度十五分西					
一構造及著色其他ハ從前ノ通					
○遞信省告示第八十二號					
本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ					
明治四十二年一月二十三日					
遞信大臣 男爵後藤新平					
○遞信省告示第八十三號					
來二月二日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送					





「八日市場旭町間」ノ次ニ

八日市場小見川間	金十五錢	金十錢
旭町小見川間	金十五錢	金十錢
佐原小見川間	金十錢	金十錢

○逓信省告示第九十號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十五日

名	逓信大臣	男爵後藤新平
稱		
位		
置		
名	小千谷郵便局	新潟縣北魚沼郡小千谷町
稱		
位		
置	十日町郵便局	新潟縣中魚沼郡十日町

○逓信省告示第九十一號

明治三十三年八月逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十五日

「越後國西蒲原郡卷町大字卷村」ノ項ノ次ニ  
 越後國三島郡關原村大字關原(字高野ヲ除ク)、同西關原、同下除、同五反田、同白鳥、日越村大字上除(字沖布ヲ除ク)  
 越後國古志郡新尾町大字新尾、同山田、同一ノ渡戸、東谷村大字天下島  
 越後國北魚沼郡小千谷町城川村大字千谷川、同西千谷川、藤生村大字藤生字中子  
 越後國中魚沼郡十日町大字十日町(字江道、同鏡倉、同津池、同蓋池、同赤倉、同輕澤、同大池、同島ヲ除ク)、同原村、川治村大字山本

○逓信省告示第九十二號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料 中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十五日

逓信大臣 男爵後藤新平

「三條卷間」ノ次ニ

加入區域外	電話料	一回ノ電
三條關原間	金二十錢	金十五錢
三條新尾間	金二十錢	金十五錢
三條小千谷間	金二十錢	金十五錢
長岡關原間	金二十錢	金十五錢
長岡新尾間	金二十錢	金十五錢
長岡小千谷間	金二十錢	金十五錢
長岡十日町間	金二十錢	金十五錢
柏崎關原間	金二十錢	金十五錢
柏崎小千谷間	金二十錢	金十五錢
柏崎十日町間	金二十錢	金十五錢
新潟新尾間	金二十五錢	金十五錢
新潟小千谷間	金二十五錢	金十五錢
新潟十日町間	金二十五錢	金十五錢
今町新尾間	金十錢	金十錢
見附新尾間	金十錢	金十錢
小千谷十日町間	金十五錢	金十錢

「長岡卷間」ノ次ニ

「柏崎高田間」ノ次ニ  
 「新潟卷間」ノ次ニ  
 「今町見附間」ノ次ニ  
 「見附卷間」ノ次ニ

○逓信省告示第九十三號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十五日

名	逓信大臣	男爵後藤新平
稱		
位		
置		

明治四十二年一月 告示 逓信省第九十三號

群馬縣多野郡藤岡町

○逓信省告示第九十四號

明治三十三年八月逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中「上野國邑樂郡多々良村」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十五日

逓信大臣 男爵後藤新平

上野國多野郡藤岡町大字藤岡字南町、同山崎、同舞合、同堀ノ内、同中組、同白塔寺ヲ除ク

○逓信省告示第九十五號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十五日

逓信大臣 男爵後藤新平

加入區域外  
通話區域

一通話ノ  
電話料、  
一回ノ電  
話呼出料

「東京石岡間」ノ次ニ

東京藤岡間

金二十五錢

金十五錢

「前橋館林間」ノ次ニ

前橋藤岡間

金十五錢

金十錢

「高崎吉井間」ノ次ニ

高崎藤岡間

金十錢

金十錢

「伊香保沼田間」ノ次ニ

伊香保藤岡間

金二十錢

金十五錢

「富岡吉井間」ノ次ニ

富岡藤岡間

金十五錢

金十錢

「土浦石岡間」ノ次ニ

吉井藤岡間

金十錢

金十錢

○逓信省告示第九十六號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

明治四十二年一月二十六日 逓信大臣 男爵後藤新平

英貨	一パウンド	九百八十二・七七	一圓ニ付「シルリング」〇・八
佛貨	一フラン	四九・二〇	一圓ニ付「フラン」五・五
米貨	一セント	二〇・五	一圓ニ付「セント」六・二五
獨貨	一マルク	四八・七〇	一圓ニ付「マルク」〇・八
國貨	一フロリン	八・五八〇	一圓ニ付「フロリン」二・二
瓊地利貨幣	一クローネ	四・三九〇	一圓ニ付「クローネ」四・一
洪島利貨幣	一コロナ	四・三九〇	一圓ニ付「コロナ」四・一
丁抹威貨幣	一クローネ	五・四三〇	一圓ニ付「クローネ」八・四
瑞典貨幣	一クローナ	八・七五〇	一圓ニ付「クローナ」六・二
*香港洋銀	一ダラー	八・七五〇	一圓ニ付「ダラー」十三・三
一セント	八・七五	一圓ニ付「セント」九・六〇	
*墨銀	一ダラー	八・七〇〇	一圓ニ付「ダラー」十四・三
一セント	八・七〇	一圓ニ付「セント」九・四三	

(備考) 羅馬尼亞貨幣、ルーマニアノ換算割合ハ佛貨換算割合ニ同シ、\*香港爲管中劉公島及寧波ニ掘宛ツルモノニハ銀根換算割合ヲ適用シ其他ノ地方ニ掘宛ツルモノニハ香港洋銀換算割合ヲ適用ス

○逓信省告示第九十七號

明治三十七年八月逓信省告示第三百九十二號萬國電信條約附屬細目規則中各國隨意規定事項ニ關スル外國電信主管廳及電信會社ノ決定中「一、歐洲外方法ニ關スル特別事項」第九、追尾電報」左記諸國及電信會社ニ於テハ發信人ノ依頼ニ由ル追尾電報ニ關スル規定ヲ適用ス、ノ部中「錫蘭」ヲ削除シ同部中「英領印度」ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

錫蘭ニ於テハ錫蘭及印度國境外ハ電報ノ再送ヲ爲サス

○逓信省告示第九十八號

明治三十九年九月逓信省告示第四百十六號外國電信取扱制限表中「パナマ」ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

サルヴァドル 電報ヲ検査ニ付ス

○逓信省告示第九十九號

明治三十三年八月逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中左ノ通追加シ來二月一日ヨリ施行ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

信濃國諏訪郡宮川村字安國寺ノ下ニ

○逓信省告示第一百號

本日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

名稱 高鍋郵便局 位置 宮崎縣兒湯郡高鍋町

○逓信省告示第一百一號

明治三十三年八月逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中「日向國北諸縣郡庄内村字東」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

日向國兒湯郡高鍋町大字高鍋同北高鍋同南高鍋字石原同上述江同兼江同兼同宮田同大工小路同光音寺同兼同新小路上江村大字上江字島田同黒谷同高月同松木同山下同平原同中島同馬場原同川田同楠木

○逓信省告示第一百二號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追加ス

明治四十二年一月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

「宮崎庄内間」ノ次ニ

加入區域外 電話料

一通話ノ 一回ノ電

○逓信省告示第一百三號

來二月一日ヨリ左記電信取扱所ヲ設置ス

明治四十二年一月二十七日

逓信大臣 男爵後藤新平

名 稱 位 置 福島縣相馬郡太田村鑿城太田停車場(鐵道院) (高鍋區) 及位電信取扱所 山形縣最上郡及位村及位停車場(同) (高鍋區)

○逓信省告示第一百四號

來二月十一日以降歐洲諸國(露西亞ヲ除ク)、伯西兒、亞然的音共和國、智利「ウルグエ」及「パラグエ」宛通常郵便物ハ特ニ西比利亞經由ノ指定アルモノニ限リ西比利亞經由差立方取計フ

明治四十年九月逓信省告示第五百四十一號及同四十一年三月逓信省告示第三百七號ハ來二月十日限り之ヲ廢止ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百五號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百六號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基ク請願ニ依リ來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百七號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百八號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百九號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百十號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百十一號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百十二號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

○逓信省告示第百十三號

來二月一日ヨリ左記電信取扱所ヲ設置ス但シ電報配達事務ヲ取扱ハス

明治四十二年一月二十八日

逓信大臣 男爵後藤新平

名稱 國分電信取扱所

位置

香川縣綾歌郡端岡村國分停車場(鐵道院) (國分局)

○逕信省告示第百十四號

帆船新築丸外五十四艘ニ左ノ信號符字ヲ照附ス

明治四十二年一月二十九日

逕信大臣 男爵後藤新平

信號符字	番號	種類	船名	船籍港	所有者
LFWG	五六九七	帆	新榮丸	豐後國宮來町	松本兵吉
LDKT	七一二六	汽	劍勝丸	相模國浦賀町	劍勝興業株式會社
LFQV	七三五六	帆	松金丸	尾張國小鈴谷村	大崎金作
LDRG	八五八三	帆	千速丸	駿河國清水町	增田賢藏
LHBT	九〇三七	帆	朝日丸	伊豫國興居島村	橋本龜藏
LGFW	九九七四	汽	第二最進丸	羽後國酒田町	酒田水陸運輸株式會社
LDCJ	一〇八六六	帆	大進長勢丸	長崎市	長井万太郎
LCNM	一一一七五	帆	八幡丸	隱岐國知夫村	安藤伊勢松
LFWD	一一五四〇	帆	第參號宮福丸	周防國上關村	宮崎德次郎
LFWH	一一五五一	汽	大久保丸	門司市	中村眞太郎
LFWJ	一一五七五	帆	大盛丸	長門國宇部村	河村喜平
LFWK	一一五七六	帆	大徳丸	周防國上關村	守友甚作

信號符字	番號	種類	船名	船籍港	所有者
LHCM	一一五八七	汽	駒形丸	東京市	東京市
LHCP	一一五九一	汽	平野丸	東京市	日本郵船株式會社
LHCQ	一一五九二	汽	地洋丸	東京市	東洋汽船株式會社
LHCR	一一五九三	汽	三島丸	東京市	日本郵船株式會社
LHFJ	一一六一六	汽	第一丸	神戶市	田村市郎
LHFK	一一六一八	帆	寶來丸	阿波國淺川村	丸岡記兵衛
LHSN	一一六八九	帆	光徳丸	備後國浦崎村	金子勝太郎
LHSP	一一六九〇	帆	住吉丸	安藝國大崎中野村	大林留松
LHJP	一一六九五	帆	永春丸	日向國青島村	渡邊市作
LFPS	一一七三四	汽	菊水丸	日向國青島村	渡邊市作
LFPT	一一七三五	汽	笠井丸	大坂市	三陸汽船株式會社
LFV	一一七三六	帆	幸寶丸	肥後國新宮町	小原五郎吉
LPW	一一七三七	帆	順吉丸	大坂市	田口久太郎
LPQB	一一七三八	汽	櫻島丸	大坂市	内藤省
LHQD	一一七六四	帆	榮進丸	土佐國下田村	小笠原福太郎
LHQD	一一七六五	帆	久壽丸	土佐國五重山村	井上龍馬
LHQF	一一七六六	帆	福久丸	土佐國下田村	森山武助

L H Q G	一一七六七	帆	寶	丸	土佐國下田村	谷下米太郎
L H Q J	一一七六八	帆	福	丸	土佐國下田村	和田喜太郎
L H Q K	一一七六九	帆	大	丸	土佐國下田村	小西和太郎
L H Q M	一一七七〇	帆	快	丸	土佐國三里村	中城直顯
L H Q N	一一七七一	帆	榮	丸	土佐國下田村	矢部嘉太郎
L H Q P	一一七七二	帆	大	丸	土佐國三里村	弘瀬源次郎
L H Q R	一一七七三	帆	虎	丸	土佐國三里村	森澤潤相
L G N H	一一八一	帆	正	丸	肥前國口之津村	立光久米吉
L H B P	一一八四六	帆	明	丸	周防國小松志佐村	井倉安次郎
L H B Q	一一八四七	帆	住	丸	伊豫國八幡濱町	米田元吉
L H B R	一一八四八	帆	第三號住徳丸	丸	周防國森野村	中村市五郎
L H B S	一一八四九	帆	姪	丸	周防國日真居村	中原福太郎
L H B V	一一八五〇	帆	伊	丸	伊豫國興居島村	山本清吉
L H B W	一一八五一	帆	住	丸	周防國和田村	濱中寅藏
L G Q W	一一八九四	帆	第二號名取丸	丸	濱市	名取斧吉
L G R B	一一八九五	帆	第三號名取丸	丸	濱市	名取斧吉
L G R C	一一八九六	帆	廿四號さつま丸	丸	濱市	宇都宮桂吉郎

L H S Q	一一九二一	帆	海	丸	安藝國東野村	濱崎嘉次平
L H S R	一一九二二	帆	妙	丸	安藝國佐江崎村	小田順吉
L H S T	一一九二三	帆	三	丸	安藝國音戸町	橋本卯作
L H S V	一一九二四	帆	内	丸	備後國浦崎村	村上幸右衛門
L H S W	一一九二五	帆	先	丸	安藝國西野村	土井田柳之助
L H T B	一一九二六	帆	第七號上田丸	丸	安藝國高田村	上田淺次郎
L H T C	一一九二七	帆	明	丸	安藝國音戸町	廣木勝次郎
L H T D	一一九二八	帆	宮	丸	安藝國大崎中野村	松浦保吉
L H T F	一一九二九	帆	光	丸	安藝國大崎中野村	谷本音吉

○逓信省告示第百十五號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基テ請願ニ依リ來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十九日

名 稱 住吉郵便局

位 置 靜岡縣橋原郡吉田村

○逓信省告示第百十六號

本月三十一日限り左記電信取扱所ニ於ケル電信事務ヲ廢止ス但當該事務ハ下記郵便局之ヲ承繼ス

明治四十二年一月二十九日

名 稱 醒井電信取扱所

位 置 滋賀縣坂田郡醒井村

○逓信省告示第百十七號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基テ請願ニ依リ來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十九日

名 稱 醒井電信取扱所

承繼局名 醒井郵便局

明治四十二年一月 告示 逓信省第百十五號 第百十六號 第百十七號

名 稱 旭町郵便局

位 置 千葉縣海上郡旭町

○逓信省告示第百十八號

本月三十一日限り左記電信取扱所ニ於ケル電報配達事務ヲ廢止ス

名 稱 旭町電信取扱所

位 置 千葉縣海上郡旭町

○逓信省告示第百十九號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

名 稱 上田新町郵便局

位 置 長野縣小縣郡上田町

○逓信省告示第百二十號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

名 稱 大阪北區安治川郵便局

位 置 大阪府北區安治川通上二丁目

名 稱 大阪片町郵便局

位 置 大阪府北區相生町

名 稱 横濱不老町郵便局

位 置 横濱市西區西區

○逓信省告示第百二十一號

伊太利國「メッシーヌ」市及「レンジョ」市宛小包郵便物ハ震災救助委員宛ノモノヲ除クノ外當分ノ内發送スルコトヲ得サル旨萬國郵便聯合總理局ヨリ通知アリ

○逓信省告示第百二十二號

明治三十九年六月逓信省告示第百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追

加シ來二月一日ヨリ施行ス

明治四十二年一月二十九日

「新潟十日町間」ノ次ニ

加入區域外  
通話區域

一 通話料

一回ノ電  
話呼出料

「三條小千谷間」ノ次ニ

新潟直江津間

金三十五錢

金二十錢

「長岡十日町間」ノ次ニ

三條直江津間

金二十五錢

金十五錢

「直江津高田間」ノ次ニ

長岡直江津間

金二十五錢

金十五錢

「直江津柏崎間」ノ次ニ

直江津柏崎間

金二十錢

金十五錢

○逓信省告示第百二十三號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

名 稱 愛知縣東春日井郡瀬戸町

位 置 愛知縣東春日井郡瀬戸町

○逓信省告示第百二十四號

明治三十三年八月逓信省告示第百十四號電話呼出地域中「尾張國知多郡野間村大字野間」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

○逓信省告示第百二十五號

明治三十九年六月逓信省告示第百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

○逓信省告示第百二十六號

明治三十九年六月逓信省告示第百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通追

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

名 稱 尾張國東春日井郡瀬戸町

位 置 尾張國知多郡野間村大字野間

加ス

明治四十二年一月二十九日

長東京久居間ノ次ニ

加入區域外  
電話料

遞信大臣 男爵後藤新平  
一回ノ電  
話呼出料

名古屋野間間ノ次ニ

長東京 榎戸間

金 一圓 金二十五錢

長笠松大阪間ノ次ニ

名古屋 榎戸間

金十五錢 金十錢

長刈谷大阪間ノ次ニ

多治見 榎戸間

金十錢 金十錢

○遞信省告示第百二十六號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務及電話通話事務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電  
話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年一月二十九日

名 稱 笠岡郵便局 位 置 岡山縣小田郡笠岡町

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第百二十七號

明治三十三年八月遞信省告示第三百十四號電話呼出地域中「備中國後月郡井原町」ノ項ノ次ニ左ノ通  
追加ス

明治四十二年一月二十九日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省告示第百二十八號

備中國小田郡笠岡町 笠岡町 大字 西渡 同音 渡字 土手

加ス

明治四十二年一月二十九日

大阪井原間ノ次ニ

加入區域外  
電話料

遞信大臣 男爵後藤新平  
一回ノ電  
話呼出料

神戸山崎間ノ次ニ

大阪 笠岡間

金五十五錢 金二十錢

岡山井原間ノ次ニ

神戸 笠岡間

金五十錢 金二十錢

津山倉敷間ノ次ニ

岡山 笠岡間

金二十錢 金十五錢

倉敷天城間ノ次ニ

津山 笠岡間

金三十錢 金二十錢

玉島井原間ノ次ニ

倉敷 笠岡間

金二十錢 金十五錢

西大寺井原間ノ次ニ

玉島 笠岡間

金十五錢 金十錢

龍野山崎間ノ次ニ

西大寺 笠岡間

金二十五錢 金十五錢

○遞信省告示第百二十九號

來二月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年一月二十九日

遞信大臣 男爵後藤新平

井原 笠岡間

金十錢 金十錢

笠岡 福山間

金二十錢 金十五錢

笠岡 尾道間

金三十錢 金二十五錢



加治木郵便局 鹿兒島縣給良郡加治木村

名 稱 鹿兒島縣給良郡加治木村

名 稱 鹿兒島縣給良郡加治木村

○逓信省告示第三百三十號

明治三十三年八月逓信省告示第三百十四號電話呼出地域中「薩摩國薩摩郡隈之城村大字向田」ノ項ノ次ニ左ノ通り追加ス

明治四十二年一月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

大隅國給良郡加治木村大字加治木、同反土字下瀨町、同上瀨町、同西町、同中町、同今町、同横町、同天神馬場、同新町、同江湖町、同西ノ口、同蒲生田町、同嶋山、同諏訪馬場、同小陣、同新道、同柳木田、同向茶屋、同田中、同竹下、同萩原、加治木村大字木田字東鑿入、同西鑿入、同向江町、同吉野寺馬場

○逓信省告示第三百三十一號

明治三十九年六月逓信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及電話料、電話呼出料中左ノ通り追加ス

明治四十二年一月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

「鹿兒島庄内間」ノ次ニ

「都城庄内間」ノ次ニ

「谷山川内間」ノ次ニ

鹿兒島加治木間	金十五錢	鹿兒島蒲生間	金十五錢	都城加治木間	金二十錢	加治木蒲生間	金十錢
金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十五錢	金十五錢	金十錢	金十錢

○統監府告示第一號(官報一月二十一日)  
明治四十二年一月十六日ヨリ左記郵便所ヲ移轉改稱ス

明治四十二年一月十六日

統監 公爵伊藤博文

所 名	現 在	改 正
京城新町郵便所	京城道京城新町	京城道京城本町九丁目
呼出局所	呼	地 域
成 敷	忠清南道稷山郡三西面ノ内成敷驛、成敷南山店、西便村、宗洞、酒母巨里、竹里	
天 安	忠清南道天安郡上里面ノ内天安邑、天安驛北一面ノ内新賢里	
温泉里	忠清南道溫陽郡西面ノ内温泉里	

○統監府告示第二號(官報一月二十八日)  
明治四十一年九月統監府告示第五百五十九號電話呼出地域中左ノ通り改正シテ來二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年一月二十三日

統監 公爵伊藤博文

絶影島ノ次ニ左ノ各項ヲ加フ

呼出局所	呼	地 域
成 敷	忠清南道稷山郡三西面ノ内成敷驛、成敷南山店、西便村、宗洞、酒母巨里、竹里	
天 安	忠清南道天安郡上里面ノ内天安邑、天安驛北一面ノ内新賢里	
温泉里	忠清南道溫陽郡西面ノ内温泉里	

○臺灣總督府告示第一號(官報一月十九日)  
明治四十二年一月一日發行全臺日報第一千六百六十七號ハ臺灣新聞紙條例第十條ニ依リ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治四十二年一月一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府告示第二號(官報一月十九日)  
明治二十九年八月府令第二十六號非常通信規則施行細則ニ依リ花蓮港郵便出張所ヲシテ當分ノ内郵

明治四十二年一月告示 統監府第一號 第二號 臺灣總督府第一號 第二號

便及電信ニ關スル非常通信事務ヲ取扱ハシム

明治四十二年一月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府告示第三號(官報一月十九日)

富基角燈臺ハ燈塔修繕工事ノ爲明治四十二年一月十日ヨリ當分ノ内點火ヲ休止シ同日ヨリ不動紅色ノ假燈ヲ設置ス

明治四十二年一月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

一假燈ハ燈塔ノ北側ナル旗竿ノ中部ニ掲置ス

一假燈ハ水面上ノ高サ七十四尺其ノ光達距離ハ晴天ノ夜六海里ナリ

○臺灣總督府告示第四號(官報一月二十一日)

明治四十一年十月律令第十七號ニ依ル一圓銀貨幣引換價格ハ明治四十二年一月十五日以降金八十六錢トス

明治四十二年一月十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府告示第五號(官報一月二十九日)

明治四十一年九月告示第百一號別冊臺灣發川石山經過外國電報料金表第三表 North America (北亞米利加地方) Canada (加奈太)ノ部 British Columbia (ブリチシ、コロンブヤ)ノ項中「Alexandria (アレキサンドリア)」以下「Telegraph Creek (テレグラフ、クリーク)」迄ヲ左ノ通改正ス

明治四十二年一月十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

Bonaparte (ボナパルテ)	二六六〇	三二〇八	三六六〇
Clintock (クリントック)	二六六〇	三二〇八	三六六〇
One Hundred and Fifteen Mile House (ワンハンドラフティマイルハウス)	二六六〇	三二〇八	三六六〇

Alexandria (アレキサンドリア)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Barkerville (バーカービル)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Bullion (ブルイオン)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Harpers Camp (ハーパースキャンプ)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Lillooet (リロウエット)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
One Hundred and Fifty Mile House (ワンハンドラフティマイルハウス)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Pavilion (パヴィリオン)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Quesnel (クエズネル)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Quesnelle Forks (クエズネルフォークス)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Soda Creek (ソーダクリーク)	二七〇〇	三二〇八	三六六〇
Blackwater (ブラックウォーター)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Bohail Lake (ボハイルレイク)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Fraser Lake (フレイザーレイク)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Stoney Creek (ストーニークリーク)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Burns Lake (バーンスレイク)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
South Bulkley (サウスブルクレー)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Aberdeen (アバディーン)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Aldermere (アルダーメア)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Balmoral Cannery (バルモラルキャナリー)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Bulkley (ブルクレー)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Cassiar (カシア)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Echo Lake (エコーレイク)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Eighth Cabin (エイトキャビン)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Fifth Cabin (フィフキャビン)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
First Cabin (ファーストキャビン)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Fourth Cabin (フォースキャビン)	二七八〇	三二〇八	三六六〇
Graveyard Point (グレイブヤードポイント)	二七八〇	三二〇八	三六六〇







○關東都督府告示第二號(官報一月二十日)  
明治四十年五月府令第三十二號ニ依ル銀ノ價格ヲ明治四十二年一月十日以降銀一圓ニ付金八十二錢ニ改定ス

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府告示第三號(官報一月二十五日)  
明治四十年五月府令第三十二號ニ依ル銀ノ價格ヲ明治四十二年一月十五日以降銀一圓ニ付金八十四錢ニ改定ス

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府告示第四號(官報一月二十五日)  
明治四十一年十一月十一日告示第四百四號中左ノ通告正ス

關東都督 子爵大島義昌

普蘭店出張所管轄區域ノ欄一圓ノ下ニ但シ黃阻子廟會、谷山會、玉皇頂會ヲ除クヲ加フ

附則

本告示ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十一年十一月十一日告示第四百四號ハ大連民政署金州出張所ノ名稱位置管轄區域ナリ

○關東都督府告示第五號(官報一月二十八日)  
大連水道給水量不足ナリシ爲去明治四十一年十二月一日以降給水工事ノ請求ヲ受理セザリシ處頃日來給水量ニ餘裕ヲ生スルニ至リタルニ付本日以降從前ノ如ク給水工事ノ請求ヲ受理ス  
明治四十二年一月十八日  
關東都督 子爵大島義昌

○鐵道院告示第六號  
明治四十年十月逕信省告示第六百四十號帝國鐵道廳所管線中左記ノ通り改正シ來二月十五日ヨリ實施ス

明治四十二年二月一日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

一 岩見澤室蘭間ノ項輪西室蘭間

二九ノ三二ニ改ム

○鐵道院告示第七號

二二ノ二四ニ改ム

本月二十一日ヨリ東海道線幸田停車場ニ於テ一車積貨物ノ取扱ヲ開始ス

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第八號

鐵道院總裁 男爵後藤新平

明治四十二年三月一日ヨリ東海道線天保山驛ニ於テ手荷物ノ配達及小荷物ノ取扱ヲ開始ス

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○宮内省告示第一號

明治四十一年宮内省令第十號御料地拂下規程ニ依リ拂下ヲ爲スヘキ小町步不要存御料地ハ左ノ如

但シ拂下出願期限ハ明治四十二年四月三十日トシ拂下願書ハ帝室林野管理局(東京市麹町)ニ差

出スヘシ

宮内大臣 伯爵田中光顯

番號	町市	町村	大字	字	地目	地番	段別
一	下野	河内	城山	飯田	番匠内	原野	二五六一































